

﴿٥٦﴾ فَمَا كَانَ جَوَابَ قَوْمِهِ إِلَّا أَنْ قَالُوا أَخْرِجُوهُمْ أَلْ لَوْ طِ مِّن قَرْيَتِكُمْ إِنَّهُمْ أَنَاسٌ يَّتَطَهَّرُونَ ﴿٥٦﴾ فَأَنْجَيْنَاهُ وَأَهْلَهُ إِلَّا أُمَّرَأَتَهُ وَقَدَّرْنَا هُنَّ مِنَ الْغَابِرِينَ ﴿٥٧﴾ وَأَمْطَرْنَا عَلَيْهِمْ مَطَرًا فَسَاءً مَطَرُ الْمُنذِرِينَ ﴿٥٨﴾ قُلِ الْحَمْدُ لِلَّهِ وَسَلَامٌ عَلَى عِبَادِهِ الَّذِينَ اصْطَفَى اللَّهُ خَيْرٌ مَّا يُشْرِكُونَ ﴿٥٩﴾ أَمَّنْ خَلَقَ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضَ وَأَنْزَلَ لَكُمْ مِنَ السَّمَاءِ مَاءً فَأَنْبَتْنَا بِهِ حَدَائِقَ ذَاتَ بَهْجَةٍ مَّا كَانَ لَكُمْ أَنْ تُنْبِتُوا شَجَرَهَا أَإِلَهِهُمَّ اللَّهُ بَلْ هُمْ قَوْمٌ يَعِدُونَ ﴿٦٠﴾ أَمَّنْ جَعَلَ الْأَرْضَ قَرَارًا وَجَعَلَ خَلْقَهَا أَنْهَارًا وَجَعَلَ لَهَا رَوِيسَى وَجَعَلَ بَيْنَ الْبَحْرَيْنِ حَاجِزًا أَإِلَهِهُمَّ اللَّهُ مَعَ اللَّهِ بَلْ أَكْثَرُهُمْ لَا يَعْلَمُونَ ﴿٦١﴾ أَمَّنْ يُجِيبُ الْمُضْطَرَّ إِذَا دَعَاهُ وَيَكْشِفُ السُّوءَ وَيَجْعَلُكُمْ خُلَفَاءَ الْأَرْضِ أَإِلَهِهُمَّ اللَّهُ مَعَ اللَّهِ قَلِيلًا مَّا تَذَكَّرُونَ ﴿٦٢﴾ أَمَّنْ يَهْدِيكُمْ فِي ظُلُمَاتِ اللَّيْلِ وَالْبَحْرِ وَمَنْ يُرْسِلُ الرِّيْحَ بُشْرًا بَيْنَ يَدَيْ رَحْمَتِهِ أَإِلَهِهُمَّ اللَّهُ تَعَالَى اللَّهُ عَمَّا يُشْرِكُونَ ﴿٦٣﴾

56) しかしかれの民の答えは、ただこれだけだった。ルートとかれに従う一団をこの町から追い出せ。確かにかれらは純潔振る人たちだ。かれらの非道徳な行為に加わらないルートの家族を非難して言ったのだが、実際はかれら自身が非難されるものであった。

57) それでわれらはかれとかれの家族を救った。ただし、かれの妻を除いて。われらはかの女を後方に罰せられる仲間にした。

58) そしてわれらは焼いた石の塊をルートの人々の上に降らせた。この石の雨は警告されたが、呼び掛けに答えなかった人々にとって、何とも災厄であった。

59) 使徒よ、言え。アッラーの恩寵に対して、すべての称賛あれ。またかれが預言者として選んだ僕たちの上に平安あれ。真実の神で、その手中にすべての王国があるアッラーの方が善いのか、もしくは、何の益も害も所有しない、かれらが配する神々がいいのか。

60) 誰が先例もなく諸天と地を創造したのか。また誰があなた方のために空から雨を降らすのか。それでもって、われらは美しい果樹園を茂らせる。あなた方がその樹木を成長させるのではない。アッラーが生育させられるのだ。アッラーの他の神がそうするのか。いや、かれらは真実の道を外れて、創造主を不正にも被造物と同位に配するのである。

61) 誰が大地を堅固で静かな住みかとし、そこに流れる川を設け、また山々をしっかりと据え付け、二つの海(淡水、塩水)が混じって飲めないようにならないために、それらの間に障壁を設けたのか。アッラーの他の神が、そういったことすべてをするのか。いや、かれらの多くは知らない。知っていたならば、アッラーの創造したものを、アッラーに並べなかつたはずだ。

62) 病気や貧困などの窮地にある人が助けを求めて祈るとき、誰がかれに応え、誰が災厄を除き、誰があなた方を続く世代をまたがって地上の後継者とするのか。アッラーの他に真実の神がいて、そうするのか。いや、あなた方は少しも留意して、熟慮しない。

63) 誰が陸と海の暗黒の中で、あなた方に印と星を設定して導くのか。また、誰がかれの慈雨の前の吉報として、風を送るのか。アッラーの他の神がそうするのか。アッラーはかれらが同位に配するものを遙かに超越して、至高なのである。

本諸節の功德:

- 誤った人たちは、真実の根拠を示されてどうにもならなくなると暴力に訴える。
- 信仰抜ききの婚姻関係は、来世では役に立たない。
- アッラーの恵みを想起させて、その唯一性の信仰を固めること。
- 信者、不信仰者を問わず、アッラーは困った人が唱念すれば応えられる。

أَمَّنْ يَجِدُوا الْخَالِقَ يُتْرَعِدُهُ، وَمَنْ يَرْفُكُم مِّنَ السَّمَاءِ وَالْأَرْضِ
 أَيُّ لَهِّ مَعَ اللَّهِ قُلْ هَاتُوا بُرْهَانَكُمْ إِنْ كُنْتُمْ صَادِقِينَ ﴿٦٤﴾ قُلْ
 لَا يَعْلَمُ مَنْ فِي السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ الْغَيْبَ إِلَّا اللَّهُ وَمَا يَشْعُرُونَ
 أَيَّانَ يَبْعَثُونَ ﴿٦٥﴾ بَلِ آدَارَكَ عِلْمُهُمْ فِي الْآخِرَةِ بَلْ هُمْ فِي
 شَكٍّ مِّمَّهَا بَلْ هُمْ مَنهَا عَمُونَ ﴿٦٦﴾ وَقَالَ الَّذِينَ كَفَرُوا هَذَا
 كُنَّا تَرَابًا وَإِنَّا أَيْدَانَا الْمَخْرُجُونَ ﴿٦٧﴾ لَقَدْ وَعَدْنَا هَذَا
 نَحْنُ وَآبَاؤُنَا مِن قَبْلُ إِنْ هَذَا إِلَّا أَسْطِيرُ الْأَوَّلِينَ ﴿٦٨﴾
 قُلْ سِيرُوا فِي الْأَرْضِ فَانظُرُوا كَيْفَ كَانَ عَاقِبَةُ الْمُجْرِمِينَ
 ﴿٦٩﴾ وَلَا تَحْزَنْ عَلَيْهِمْ وَلَا تَكُنْ فِي ضَيْقٍ مِّمَّا يَمْكُرُونَ ﴿٧٠﴾
 وَيَقُولُونَ مَتَى هَذَا الْوَعْدُ إِنْ كُنْتُمْ صَادِقِينَ ﴿٧١﴾ قُلْ عَسَى
 أَنْ يَكُونَ رَدِفٌ لَّكُمْ بَعْضُ الَّذِي تَسْتَعْجِلُونَ ﴿٧٢﴾ وَإِنَّ رَبَّكَ
 لَذُو فَضْلٍ عَلَى النَّاسِ وَلَٰكِنَّ أَكْثَرَهُمْ لَا يَشْكُرُونَ ﴿٧٣﴾ وَإِنَّ
 رَبَّكَ لَيَعْلَمُ مَا تُكْنُ صُدُورُهُمْ وَمَا يُعْلِنُونَ ﴿٧٤﴾ وَمَا مِنْ غَائِبَةٍ
 فِي السَّمَاءِ وَالْأَرْضِ إِلَّا فِي كِتَابٍ مُّبِينٍ ﴿٧٥﴾ إِنْ هَذَا إِلَّا قُرْآنٌ
 يَفْصَحُ عَلَىٰ بَنِي إِسْرَائِيلَ أَكْثَرَ الَّذِي هُمْ فِيهِ يَخْتَلِفُونَ ﴿٧٦﴾

64) 誰が子宮で創造を始め、さらにそれを繰り返し、死の後から復活させるのか。また誰が空から雨を降らせて、地からあなた方に植物を糧として与えるのか。アッラーの他の神がそういうことをするのか。使徒よ、多神教徒たちに言え。あなた方が真実を語っているなら、偶像崇拜が正しいとするあなた方の証拠を持ってくるがよい。

65) 使徒よ、言え。アッラーの他は、諸天の天使や地上の人間で見えない世界を知る方はいないのだ。また、かれらはいつ自分たちが報いのために復活するかも知らない。

66) かれらの知識は来世に及んでいるというのか？いや、かれらは来世に疑いと戸惑いを抱いている。いや、かれらの視覚は来世に関しては盲目なのだ。

67) 不信心の人たちは言う。わたしたちが土になってから、本当に復活して連れ出されるのか。

68) 確かに、わたしたちもわたしたちの先祖も、以前にこれを約束された。でも、それが実現されたのは見たことがない。これは昔の人が記録に残した嘘の物語にすぎないのだ。

69) 使徒よ、言え。復活を拒否する人たちに、地上を旅して、復活を拒否したこれら罪深い人たちの末路がどうであったかを観察せよ、と。われらがその拒否のために、滅ぼしたのだ。

70) あなたはかれら、マッカの多神教徒について悲嘆してはいけぬ。また、かれらが企てることに心を痛めてはいけぬ。アッラーがかれらに対して、あなたを守られるのだ。

71) 復活を否定して、かれらは言う。あなた方が真実を語るのなら、この約束の懲罰はいつ起こるのか。

72) 使徒よ、かれらに言え。あなた方が急いで求めているものは、あなた方のすぐ近くに迫っているかもしれない。

73) 確かに、あなたの主、アッラーは、不信仰と罪にも拘らずかれらへの懲罰を急がれず、そうして人間に対して恩恵を与える方。でも、かれらの多くは感謝もしていない。

74) 確かにあなたの主、アッラーは、かれらが胸に隠すことも、現わすことも知っている。何事もかれらから隠すことはできないのだ。

75) そして、諸天と地において人々には知られていないいかなるものでも、保存されている明瞭な書板の中に記されてないものは何もない。

76) 確かに、ムハンマド(平安あれ)に下されたこのクルアーンは、イスラエールの子孫が対立して議論している多くのことについて語り、かれらが逸脱していることを示すものである。

本諸節の功德:

- 見えない世界はアッラーに専属しており、それを知っていると主張することは不信仰の一部である。
- 以前の諸国の結果と状況を知ることで、救われるかも知れない。
- アッラーの知識は僕の行為を包み込んでいる。
- イスラエールの子孫が逸脱し、その啓典を書き換えているのを、クルアーンは是正する。

وَأَنَّهُ وَهْدَىٰ وَرَحْمَةً لِّلْمُؤْمِنِينَ ﴿٧٧﴾ إِنَّ رَبَّكَ يَقْضِي بَيْنَهُمْ بِحُكْمِهِ ۖ وَهُوَ الْعَزِيزُ الْعَلِيمُ ﴿٧٨﴾ فَتَوَكَّلْ عَلَى اللَّهِ ۖ إِنَّكَ عَلَىٰ الْحَقِّ الْمُبِينِ ﴿٧٩﴾ إِنَّكَ لَا تَسْمَعُ الْمَوْتَىٰ وَلَا تَسْمَعُ الصُّمَّ الدَّعَاءَ إِذَا أُولُوا مَدْبِرِينَ ﴿٨٠﴾ وَمَا أَنْتَ بِهَادِي الْعُمَىٰ عَنِ ضَلَالِهِمْ ۗ إِنَّ تَسْمَعُ إِلَّا مَن يُؤْمِنُ بِآيَاتِنَا فَهُمْ مُسْلِمُونَ ﴿٨١﴾ وَإِذَا وَقَعَ الْقَوْلُ عَلَيْهِمْ أَخْرَجْنَا لَهُمْ دَابَّةً مِّنَ الْأَرْضِ تُكَلِّمُهُمْ أَنَّ النَّاسَ كَانُوا بِآيَاتِنَا لَا يُوقِنُونَ ﴿٨٢﴾ وَيَوْمَ نَخَشِرُ مَن كُلِّ أُمَّةٍ فَوْجًا مَّمَّنَ يُكَذِّبُ بِآيَاتِنَا فَهُمْ يُوزَعُونَ ﴿٨٣﴾ حَتَّىٰ إِذَا جَاءَهُ وَقَالَ أَكْذَبْتُمْ بَيِّنَاتِي وَلَمْ تُخِطُوا بِهَا عِلْمًا أَمْ آذًا كُنْتُمْ تَعْمَلُونَ ﴿٨٤﴾ وَوَقَعَ الْقَوْلُ عَلَيْهِمْ بِمَا ظَنَّمُوا فَعُدْتُمْ عَنْهُمْ لِيَنْطِقُونَ ﴿٨٥﴾ أَلَمْ يَرَوْا أَنَّا جَعَلْنَا آلِ إِبْرَاهِيمَ الْإِسْلَامَ لِيَسْكُنُوا فِيهِ وَالنَّهَارَ مُبْصِرًا ۗ إِنَّ فِي ذَلِكَ لَآيَاتٍ لِّقَوْمٍ يُؤْمِنُونَ ﴿٨٦﴾ وَيَوْمَ يُنْفَخُ فِي الصُّورِ فَفَزِعَ مَن فِي السَّمَوَاتِ وَمَن فِي الْأَرْضِ إِلَّا مَن شَاءَ اللَّهُ ۚ وَكُلُّ أَتَوْهُ دَاخِرِينَ ﴿٨٧﴾ وَتَرَى الْجِبَالَ تَحْسَبُهَا جَمَادًا وَهِيَ تَمْرٌ مَّرَّ السَّحَابِ ۗ صُبَّعَ اللَّهُ الَّذِي أَنْتَقَنَ كُلَّ شَيْءٍ إِنَّهُ وَخَبِيرٌ بِمَا تَفْعَلُونَ ﴿٨٨﴾

القرآن

77)そして、それはそれを実践する信者たちに対する導きであり慈悲である。

78)使徒よ、真にあなたの主は、かれの公正さによって最後の審判で信者と不信仰者の間を裁決する。かれは信者には慈悲を垂れ、不信仰者は処罰される。偉力大で敵に報復され、誰もかれを圧倒することはなく、全知であり、正直者と嘘つきははっきり区別される。

79)だからあなたはアッラーを信頼し、依拠せよ。あなたは明白な真理の上にいるのだ。

80)使徒よ、確かにあなたはアッラーへの不信仰によって心が死んでしまった者たちに聞かせることはできない。またあなたに反対して聞こえなくなったような、アッラーが真実を聞けなくされた人たちに、呼びかけを聞かせることもできない。

81)またあなたは、見えない人たちを迷いから導くことはできないのだから、悲しみ、自ら苦しむ必要はない。あなたが真実を聞かせられるのは、われらの印を信じ、アッラーの命令に服従している人たちだけである。

82)かれらに対して御言葉が確実に実現され、不信仰と罪のために懲罰が確定する日、われらは最後の瞬間に近くなって、偉大な印として、大地から一獣を出てこさせ、人間たちの多くが預言者を通じて下したわれらの印を信じなかったことを告げるであろう。

83)その日、われらはそれぞれの共同体から、われらの印を虚偽とした一群の中でも、その指導者たちを集めて、火へ向かって先頭を切るようにする。かれらは最後の群が集まるまで留め置かれて、そうして清算に向かうこととなる。

84)かれらは清算の場所まで来ると、アッラーに言われる。あなた方は唯一性を証明し、わが法を伝える、われの印を十分把握できなかつたのに、それらを拒否したのか。あなた方は信じたのか信じなかつたのか、一体何をしていたのか。

85)そしてかれらは不信仰と印を否定したことで、懲罰を食らうこととなる。かれらは自己防衛のために話す力もなく虚偽の証明のために、何も言えなくなるのである。

かれらは復活を否定していたが、アッラーは、かれらの生活の中にもその実現を示唆することがあるのだとする。それが、死に相当する睡眠があり、復活に相当する目覚めがあるということである。そこで言われたのは、

86)われらがかれらの睡眠で休息するために夜を設け、ものが見えて仕事に動しめるように昼を設けたことを、かれらは見ないのか。繰り返される死とその後の起床は、死後に復活があることの証拠である。

87)使徒よ、ラッパが吹かれる最後の日、二度目のラッパが鳴ると、諸天にいる者も大地にいる者も、恐怖に襲われる。ただし、アッラーが恩寵として望む者は別である。すべてのアッラーの被造物は、全員平身低頭でかれの御前にやって来る。

88)あなたは山々を見て、堅固であり、雲のように動かないと考えるかもしれない。でもそれは動いているのであり、すべてを動かされるアッラーの御業である。確かにかれはあなた方の行うことを熟知し、どのような行動もかれには隠せず、かれはそれに対して報われるのだ。

本諸節の功德:

- アッラーを信頼することの重要性。
- 預言者(アッラーの祝福と平安を)は明確な真実に則っていたとして、称えられる。
- 心に導きを与えるのはアッラーであり、預言者(平安を)ではないこと。
- 睡眠は死の印であり、目覚めることは復活の印である。

مَنْ جَاءَ بِالْحَسَنَةِ فَلَهُ وَخَيْرٌ مِنْهَا وَهُمْ مِنْ فَزَعٍ يَوْمَ يُدْعَى الْمُؤْمِنُونَ
 وَمَنْ جَاءَ بِالسَّيِّئَةِ فَكُبَّتْ وَجُوهُهُمْ فِي النَّارِ هَلْ تُجْزَوْنَ إِلَّا
 مَا كُنتُمْ تَعْمَلُونَ ﴿٩٠﴾ إِنَّمَا أَمْرُهُ أَنْ أَعْدَدَ رَبُّ هَذِهِ الْبَلَدَةَ
 الَّتِي حَرَّمَهَا وَلَهُ كُلُّ شَيْءٍ وَأَمْرُهُ أَنْ أَكُونَ مِنَ الْمُسْلِمِينَ
 ﴿٩١﴾ وَأَنْ أَتْلُوا الْقُرْآنَ فَمَنْ أَهْتَدَىٰ فَإِنَّمَا يَهْتَدِي لِنَفْسِهِ
 وَمَنْ ضَلَّ فَقُلْ إِنَّمَا أَنَا مِنَ الْمُنذِرِينَ ﴿٩٢﴾ وَقُلِ الْحَمْدُ لِلَّهِ
 سَيُرِيكُمْ آيَاتِهِ فَتَعْرِفُونَهَا وَمَا رَبُّكَ بِغَافِلٍ عَمَّا تَعْمَلُونَ ﴿٩٣﴾

سُورَةُ الْقَصَصِ ﴿٣٨﴾

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

طَسَّرَ ﴿١﴾ تِلْكَ آيَاتُ الْكِتَابِ الْمُبِينِ ﴿٢﴾ تَتْلُوا عَلَيْهِكَ
 مِنْ نَبِيِّ مُوسَىٰ وَفِرْعَوْنَ بِالْحَقِّ لِقَوْمٍ يُؤْمِنُونَ ﴿٣﴾ إِبْرَ
 فِرْعَوْنَ عَلَا فِي الْأَرْضِ وَجَعَلَ أَهْلَهَا شِيَعًا يَسْتَضِعُّ
 طَائِفَةٌ مِنْهُمْ يَدَّبْحُ أَبْنَاءَهُمْ وَيَسْتَحْيِي نِسَاءَهُمْ إِنَّهُ كَانَ
 مِنَ الْمُفْسِدِينَ ﴿٤﴾ وَنُرِيدُ أَنْ نَمُنَّ عَلَى الَّذِينَ اسْتَضَعُّوا
 فِي الْأَرْضِ وَنَجْعَلَهُمْ أئِمَّةً وَنَجْعَلَهُمُ الْوَارِثِينَ ﴿٥﴾

〔90〕誰でも信心と善をもって来る人は、楽園を与えられ、その審判の日の恐怖からは、アッラーから与えられる安全のお陰で心配ない。

〔91〕誰でも不信仰と悪をもって来る人は、かれらの顔を下にして地獄の火に投げ込まれる。非難と軽蔑の中で、あなた方がしてきた不信仰と罪以外に報われることがあると言われる。

〔92〕使徒よ、かれらに言え。わたしはこの町、マッカの主になんか命じられるに命じられただけである。かれはマッカを禁忌あるものとされ、流血、迫害、狩猟や樹木の伐採などが禁じられた。すべてに対する権威はかれに属する。またわたしは、かれに服従して導かれる人たちの一人であるようにも命じられた。

〔93〕またクルアーンを読誦するようにも命じられた。そして、誰でも導きを受け入れて、その教えを実行するならば、その人のためになるのだ。一方で、誰でも迷い去って、その教えを拒否し、実行しない人にはこう言え。わたしは警告者の一人にすぎない。アッラーの懲罰を警告するが、あなたの導きはわたしの手中にはない。

〔94〕またこう言え。アッラーにすべての称賛あれ。かれはあなた方に数々の印を見せるだろう。それらを水平線のかなたに、そしてあなた方の中に示されるだろう。そしてあなた方もそれに気付いて、真実に従うこととなるのだ。あなた方の主は、あなた方の行いに不注意ではない。いつも見ておられ、隠せるものはなく、それについて報われるのである。

28. 物語章(アル・カサス)

マッカ啓示

本章の趣旨:

弱い信者を助け、傲慢な背反者を破滅させるというアッラーのお力と慣行を示すことによる、力に関する真のバランスを明らかにする。

説明:

〔1〕ター・スィーン・ミーム。雌牛章でこれらの文字の説明をした。

〔2〕これは、明瞭な啓典の諸節である。

〔3〕われらは信仰する人々のために、真実をもってムーサーとフィリアウンの物語をあなたに読誦しよう。かれらこそはそれを役立てる者たち。

〔4〕確かに、フィリアウンはこの国において圧政を敷いて、国民をいくつかのグループに分けて、特定の人々を迫害した。それはイスラエルの子孫であり、男児を殺し、女兒は生かしておいた。そうしてかれらを搾取し辱(はずかし)めたのだ。実にかれは、圧政、専制、そして傲慢さで腐敗を広めた人であった。

〔5〕われらはこの国で抑圧されているイスラエルの子孫に恵みを与えようと思ひ、その敵を破滅しかれらを解放し真実を求める者たちの指導者とし、フィリアウンを崩壊させてからは、この祝福された北部(シャーム)の地の後継者にしようとした。アッラーは言われた。「われらは虐げられていた人々を、われらが祝福した東西の大地における後継者とした。…」

本諸節の功德:

- 信仰と正しい行為は、復活の日の恐怖からの救いとなる。
- 不信仰と罪は、地獄行きとなる。
- 禁忌ある場所での殺害、不正、狩猟は、禁じられている。
- アッラーのお助けと権勢は、信者にとっての結末である。

④そして、この国にかれら(イスラ－イルの子孫)を確立させて、フィルアウンとハーマーンとその軍隊に、イスラ－イルの子孫の男児が彼らの王国を支配するという、かれらが恐れていたことを見せつけようとした。

アッラーはこのようにフィルアウンに近く起こることム－サーとその民に与えられる恩恵について話した後、ム－サーが預言者として遣わされるまでの、かれの生い立ちについて語った。

⑤そこでわれらはム－サー(平安を)の母に啓示して言った。かれに乳を飲ませよ。フィルアウンが殺しに来るとかれの身の上に危険を感じたときは、かれを箱に入れてナイル川に投げ込むのだ。沈まないか、あるいはフィルアウンに捕まってしまうのか、そして離別するのかと心配して悲しんではいけない。われらは必ずかれを生きたままあなたに返し、かれを使徒の一人にするだろう。

⑥彼女は言われるままに、かれを箱に入れて川に投げ入れた。するとフィルアウンの家族は、やがてかれらの王国を滅ぼすことでかれらの敵となり悲しみの種となるム－サーを拾いあげた。実に、フィルアウンとハーマーンとかれらの軍隊は、不信仰、圧政、そして地上にもたらした腐敗により、罪深い人たちであった。

⑦フィルアウンの妻は言った。拾い上げたム－サーはわたしとあなたにとって、幸せをもたらすかも知れない。かれを殺してはいけない。わたしたちの役に立つこともあるだろうから。または養子にしてもよい。そしてかれらは、かれの手によってその国がどうなるかは理解していなかった。

⑧ム－サーの母の心は、現世のことをすっかり忘れるほどに空洞ようになった。息子のム－サーの事しか考えず、忍耐も切れそうで、かれが自分の息子だと口に出しそうにもなった。それほど息子のことで、頭が一杯だったのだ。しかしわれらはかの女の心を強靱に我慢強くさせて、主を信じる信者の一人にしたので、その命令にかの女は従順になることができた。

⑨そして、かの女はム－サーの姉に、かれの後を追うように言った。かの女(ム－サーの姉)は遠くからかれを見守っていたので、かれら(フィルアウンの人々)は何も気付かなかった。

⑩われらは前もって、ム－サーに乳母の乳を命令で禁じておいた。それでム－サーの姉はかれらが授乳に熱心な様子を見て言った。あなた方に、彼を授乳し養育する家族を教えましょうか。かれらは丁重にかれを世話するでしょう。

⑪このように、われらはム－サーをその母に返した。近くにかれを見ることが出来て、別離によって悲しまないようにするためだ。かの女はアッラーの約束が疑いもなく真実であることを知ることとなったが、かれらの多くはこの約束を知らず、また誰も彼女が本当の母親だとも知らなかった。

本諸節の功德:

- アッラーは信者に対して、敵から守るための方策を命じられる。
- 不正者の策略は、自らを滅ぼす。
- 母親のその子供への愛情は、偉大である。
- 不正者の不義を終わらせるため、合法的な知恵を駆使することは許される。
- アッラーの約束が実現することは、疑いもなく真実である。

وَنُمَكِّنْ لَهُمْ فِي الْأَرْضِ وَنُرِيَ فِرْعَوْنَ وَهَلْمَانَ وَجُنُودَهُمَا مِنْهُم مَّا كَانُوا يَحْذَرُونَ ﴿٦﴾ وَأَوْحَيْنَا إِلَىٰ أُمِّ مُوسَىٰ أَنْ أَرْضِعِيهِ فَاذْخِفِيهِ عَلَيْهِ فَالْقِيهِ فِي الْيَمِّ وَلَا تَخَافِي وَلَا تَحْزَنِي إِنَّا رَادُّوهُ إِلَيْكَ وَجَاعِلُوهُ مِنَ الْمُرْسَلِينَ ﴿٧﴾ فَاَلْتَقَطَهُ ءَآلُ فِرْعَوْنَ لِيَكُونَ لَهُمْ عَدُوًّا وَحَرِيبًا إِنَّ فِرْعَوْنَ وَهَلْمَانَ وَجُنُودَهُمَا كَانُوا خَاطِبِينَ ﴿٨﴾ وَقَالَتِ امْرَأَتُ فِرْعَوْنَ قُرْتُ عَيْنِي لِي وَلَكَ لَا تَقْتُلُوهُ عَسَىٰ أَنْ يَنْفَعَنَا أَوْ يَتَّخِذَهُ وَوَلَدًا وَهُمْ لَا يَشْعُرُونَ ﴿٩﴾ وَأَصْبَحَ فُؤَادُ أُمِّ مُوسَىٰ فَارِغًا إِن كَادَتْ لَتُبْدِي بِهِ لَوْلَا أَنْ رَبَّنَا عَلَىٰ قَلْبِهَا لِتَكُونَ مِنَ الْمُؤْمِنِينَ ﴿١٠﴾ وَقَالَتْ لِأُخْتِهِ قُصِّيهِ قَبَضْتُ بِهِ عَنْ جُنُبٍ وَهُمْ لَا يَشْعُرُونَ ﴿١١﴾ وَحَرَرْنَا عَلَيْهِ الْمَرَاضِعَ مِنْ قَبْلٍ فَقَالَتْ هَلْ أَدُلُّكُمْ عَلَىٰ أَهْلِ بَيْتٍ يَكْفُلُونَهُ لَكُمْ وَهُمْ لَهُ نَصْحُونَ ﴿١٢﴾ فَوَرَدْنَاهُ إِلَىٰ أُمِّهِ كَيْ تَقَرَّ عَيْنُهَا وَلَا تَحْزَنَ وَلِنَعْلَمَ أَنَّ وَعْدَ اللَّهِ حَقٌّ وَلَا يَسْكُنَ أَكْثَرُهُمْ لَا يَعْلَمُونَ ﴿١٣﴾

وَلَمَّا بَلَغَ أَشُدَّهُ وَاسْتَوَىٰ ءَاتَيْنَاهُ حُكْمًا وَعِلْمًا وَكَذَلِكَ نَجْزِي
 الْمُحْسِنِينَ ﴿١٤﴾ وَدَخَلَ الْمَدِينَةَ عَلَىٰ حِينٍ غَفْلَةٍ مِّنْ أَهْلِهَا
 فَوَجَدَ فِيهَا رَجُلَيْنِ يَقْتَتِلَانِ هَذَا مِنْ شِيعَتِهِ وَهَذَا مِنْ عَدُوِّهِ
 فَاسْتَعَاذَ الَّذِي مِنْ شِيعَتِهِ عَلَى الَّذِي مِنْ عَدُوِّهِ فَوَكَرَهُ
 مُوسَىٰ فَقَضَىٰ عَلَيْهِ قَالَ هَذَا مِنْ عَمَلِ الشَّيْطَانِ إِنَّهُ عَدُوٌّ مُّضِلٌّ
 مُّبِينٌ ﴿١٥﴾ قَالَ رَبِّ إِنِّي ظَلَمْتُ نَفْسِي فَاغْفِرْ لِي فَغَفَرَ لَهُ إِنَّهُ
 هُوَ الْغَفُورُ الرَّحِيمُ ﴿١٦﴾ قَالَ رَبِّ بِمَا أَعْمَتَ عَلَيَّ فَلَن أَكُونَ
 ظَهِيرًا لِّلْمُجْرِمِينَ ﴿١٧﴾ فَأَصْبَحَ فِي الْمَدِينَةِ خَائِفًا يَتَرَقَّبُ فَإِذَا
 الَّذِي اسْتَنْصَرَهُ بِالْأَمْسِ بَسَّصْتَصْرُحُهُ وَقَالَ لَهُ مُوسَىٰ إِنَّكَ لَعَوِيٌّ
 مُّبِينٌ ﴿١٨﴾ فَلَمَّا أَن أَرَادَ أَنْ يَبْطِشَ بِالَّذِي هُوَ عَدُوٌّ لَهُمَا قَالَ
 يَا مُوسَىٰ أَرِيدُ أَنْ نَقْتُلَكَ كَمَا قُتِلَتْ نَفْسًا يَا الْأَمْسِ إِن تَرِيدُ
 إِلَّا أَنْ تَكُونَ جَبَّارًا فِي الْأَرْضِ وَمَا تُرِيدُ أَنْ تَكُونَ مِنَ الْمُصْلِحِينَ
 ﴿١٩﴾ وَجَاءَ رَجُلٌ مِّنْ أَقْصَا الْمَدِينَةِ يَسْعَىٰ قَالَ يَا مُوسَىٰ إِنَّ الْأَمْلَأَ
 يَأْتِمُرُونَ بِكَ لِيَقْتُلُوكَ فَاخْرُجْ إِنِّي لَمِنَ النَّاصِحِينَ ﴿٢٠﴾
 فَخَرَجَ مِنْهَا خَائِفًا يَتَرَقَّبُ قَالَ رَبِّ نَجِّنِي مِنَ الظَّالِمِينَ ﴿٢١﴾

とするのか。あなたは地上において人々を苦しめて、暴君になりたいだけだ。そして論争する人たちの調停者となることは望まないのだろう。

⑳すると、ある人が町の一番はずれから走って来て言った。ムーサーよ、フィルアウンの参謀たちがあなたを殺そうと相談している。だから今すぐ立ち去りなさい。わたしはあなたに幸いを望む者で、かれらがあなたを捕まえて殺すことを恐れるのだ。

㉑それでその善意の助言に従ってムーサーは恐れを抱き辺りを警戒して、そこから逃げた。かれは主に嘆願して、言った。迫害する人々からわたしをお救いください、そしてかれらが危害を加えないように。

本諸節の功德:

- 自分の罪を認めることは、アッラーに嘆願する人の礼儀である。
- 善い感謝とは僕を主に従わせるもので、不服従から遠ざける。
- 特に信者を破滅から救うときは、助言を急ぐべきである。
- 嘆願によって、安全を図り、アッラーに避難することは義務である。

⑭ムーサーの身体も力も立派に成人となったとき、われらはかれに宗教に関する英知と知識を授けた。このようにムーサーの服従振りに報いたように、われらは善行をなすいずれの時代や場所の人にも報いるのである。

⑮ある時、かれは人の気が付かない間に町に入り、そこで二人の者が互いに争って口論しているのを見かけた。一人は自分の一派のイスラエールの子孫で、もう一人はかれの敵側のコプト教徒であった。かれの一派の人が敵側の人に対してかれに加勢を求めた。そこでムーサーは敵のコプト教授を拳で打って、力余って殺してしまった。ムーサーは言った。これは悪魔の仕業だ。確かに、かれは人を惑わす明白な敵である。悪魔が敵愾心を持ち、わたしを騙して迷わせたので、わたしはこのようなことをしてしまったのだ。

⑯ムーサーは主を認めながら言った。わたしの主よ、実に、わたしはこのコプト教徒を殺して、自ら不正を犯しました。どうかわたしをお赦しください。するとかれはムーサーを赦した。誠に、かれは改心する僕をよく赦される方であり、慈悲深い方なのである。

⑰かれは言った。わたしの主よ、あなたがわたしに改心するという恩恵をくださったので、わたしは決して罪深い人たちの味方になることはありません。

⑱コプト教徒を殺してから、次の日の朝、かれが目覚まして町の中で恐れを抱きながら辺りを警戒しているときのこと。見なさい、前日かれの援助を求めた人が、再び別のコプト教徒から逃れようとして、かれに助けを求めて叫んだ。ムーサーはかれに言った。あなたはよくよく間違いをして、ただ迷っているのだ。

㉑それでかれとムーサーの二人の敵であるコプト教徒をかれが拳で打とうと決めたとき、その敵は言った。ムーサーよ、あなたは昨日人を殺したように、わたしも殺そう

22) かれ(ムーサー)はマドヤンの方に向けて進み、言った。わたしの主は、わたしを正しい道に導いてくれるかもしれない。

23) それからマドヤンの水場に来てみると、かれは一群の人々が家畜に水をやっているのを見た。そしてかれらの片隅に、二人の女性が後方に控えて、かれらが水をやり終わるのを待っているのを見た。かれは言った。あなた方二人はどうして一緒に水やりをしないのか。かの女ら二人は言った。わたしたちはいつも、その羊飼いたちが水場から離れるまで、水をやらないことにしています。彼らとまじりあうのを避けるために。わたしたちの父は大変年老いているので、わたしたちが水やりをしなければならないの。

24) そこでかれはかの女ら二人のために家畜に水をやり、それから木陰に戻って、アッラーに嘆願して言った。わたしの主よ、あなたがわたしに授けるものなら、何であれ善いものを必要としている。

25) かの女ら二人の内の一人が、恥ずかしげにかれのところにやって来て言った。わたしの父があなたをお招きして、あなたがわたしたちのために水をやってくれたことへのお礼をしたいとのこと。そこで、かれ(ムーサー)がかれ(父)のところに行って来て、身の上話をした。そうしたら、父は言った。心配なさるな。あなたはフィルアウンらの不正の民から逃れたのだ。かれらはマドヤンでは、何も権威をふるっていないので、あなたに危害を加えることはない。

26) かの女ら二人の内の一人が言った。わたしの父よ。かれを羊飼いとして雇いなさいよ。強健で信用できる人は、雇うのに最善。力でその責任を果たし、信頼で任せられたことを完遂するでしょう。

27) 父は言った。もしあなたが8年間わたしのために羊飼いとして働いてくれるなら、わたしは二人の娘の内の一人を、あなたと結婚させたい。もし10年を満了したいなら、それもあなたの自由だが、約束は8年間だ。それ以上は選択自由だ。わたしはあなたに、難しいことを無理強いするつもりはない。もしアッラーがご希望ならばだが、わたしは約束を破らない、敬虔な人間であることがあなたにも分るだろう。

28) ムーサー(平安を)は言った。それはわたしとあなたの間約束であり、8年か10年かの二つの期間のどちらかをわたしが満了するにしても、わたしにとって取引を満了したことになる。しかしそれ以上は求めないでほしい。アッラーはわたしたちが言うことの証人であり、守護者なのである。

وَلَمَّا تَوَجَّهَ تَلْقَاءَ مَدْيَنَ قَالَ عَسَىٰ رَبِّي أَن يَهْدِيَنِي سَوَاءَ السَّبِيلِ ﴿٢٣﴾ وَلَمَّا وَرَدَ مَاءَ مَدْيَنَ وَجَدَ عَلَيْهِ أُمَّةً مِّنَ النَّاسِ يَسْقُونَ وَوَجَدَ مِنْ دُونِهِمُ امْرَأَتَيْنِ تَذُودَانِ قَالَ مَا خَطْبُكُمَا قَالَتَا لَا نَسْفِي حَتَّىٰ يَبْصُرَ الرَّعَاءُ وَأَبُونَا شَيْخٌ كَبِيرٌ ﴿٢٤﴾ فَسَأَلْنَاهُمَا ثُمَّ تَوَلَّيْنَا إِلَى الظِّلِّ فَقَالَ رَبِّ إِنِّي لِمَا أَنْزَلْتَ إِلَيَّ مِنْ خَيْرٍ فَقِيرٌ ﴿٢٥﴾ فَجَاءَتْهُ إِحْدَاهُمَا تَمْشِي عَلَى اسْتِحْيَاءٍ قَالَتْ إِنَّ أَبِي يَدْعُوكَ لِيَجْزِيَكَ أَجْرًا مَا سَقَيْتَ لَنَا فَلَمَّا جَاءَهُ وَقَصَّ عَلَيْهِ الْقَصَصَ قَالَ لَا تَخَفْ نَجَوْتَ مِنَ الظَّالِمِينَ ﴿٢٦﴾ قَالَتْ إِحْدَاهُمَا يَا أَبَتِ اسْتَجِرْهُ إِنَّ خَيْرَ مَنِ اسْتَجَرْتَ الْقَوِيُّ الْأَمِينُ ﴿٢٧﴾ قَالَ إِنِّي أُرِيدُ أَنْ نَمُنَّ بِمَا نَعْبُدُ رَبَّنَا أَن نَرْفَعَهُ أَكْبَرًا مِنَّا وَكَلِمَةً عَلَىٰ بَنِي إِسْرَائِيلَ أَن يَدْعُوا بِهِمُاسْمًا وَآيَةً لِّأَنَّهَا كَانَتْ آيَةً لِّلَّذِينَ آمَنُوا وَخَرَفَةً عَلَىٰ كَثِيرٍ مِّنْهُم بَلْ يُرِيدُ اللَّهُ لِيُذْهِبَ عَنَّا رُسُلَنَا وَكَلِمَةَ ابْنِ أَدَمَ إِذْ يَقُولُ لِصَاحِبِهِ اسْقِنِي فَإِذْ لَمْ يَلْمَسْ يَدَهُمَا كُذَّ بَصِيسًا لِيُقْضَىٰ لَهُمَا ذُنُوبُهُمَا وَالصَّاحِبُ يَعْبُودُ رَبَّهُ مِنْ قَبْلِ يَوْمٍ تَأْتِي السَّمَاءُ بِدُحَانٍ مُّبِينٍ ﴿٢٨﴾

本諸節の功德:

- アッラーに逃れることは、現世と来世における救いの道である。
- 女性ムスリムの謙譲は、その人の尊厳と高い位置づけとなる。
- 意見のある女性が参画し、その意見に頼ることは、それが正しければ称賛されること。
- 力と信頼性は、成功する責任者の二つの性格である。
- 結納は、目に見える物品でなくて、何らかの役立つ事でも可能である。

﴿٢٩﴾ فَلَمَّا قَضَىٰ مُوسَىٰ الْأَجَلَ وَسَارَ بِأَهْلِهِ آنَسَ مِنْ جَانِبِ الطُّورِ نَارًا قَالَ لِأَهْلِهِ امْكُثُوا إِنِّي آنَسْتُ نَارًا لَعَلِّي آتِيكُمْ مِنْهَا بِخَبَرٍ أَوْ جَذْوَةٍ مِنَ النَّارِ لَعَلَّكُمْ تَصْطَلُونَ
 ﴿٣٠﴾ فَلَمَّا أَتَاهَا نُودِيَ مِنْ شَاطِئِ الْوَادِ الْأَيْمَنِ فِي الْبُقْعَةِ الْمُبْرَكَةِ مِنَ الشَّجَرَةِ أَنْ يَمْوَسَىٰ إِنِّي أَنَا اللَّهُ رَبُّ الْعَالَمِينَ ﴿٣١﴾ وَأَنْ أَلْقِ عَصَاكَ فَلَمَّا رَأَاهَا تَهْتَزُّ كَأَنَّهَا جَانٌّ وَلَّىٰ مُدَبِّرًا لَمْ يَعْقِبْ يَمْوَسَىٰ أَقْبَلْ وَلَا تَخَفْ إِنَّا نَاكِ مِنَ الْأَمْنِيِّينَ ﴿٣٢﴾ أَسْلَكَ يَدَكَ فِي جَيْبِكَ فَخَرَجَ بِخِضَاءٍ مِنْ عَيْرٍ سُوءٍ وَأَضْمَمَ إِلَيْكَ جَنَاحَكَ مِنَ الرَّهْبِ فَذَانِكَ بُرْهَنَانِ مِنْ رَبِّكَ إِلَىٰ فِرْعَوْنَ وَمَلَئِهِ إِنَّهُمْ كَانُوا قَوْمًا فَسِيقِينَ ﴿٣٣﴾ قَالَ رَبِّ إِنِّي قَتَلْتُ مِنْهُمْ نَفْسًا فَأَخَافُ أَنْ يَقْتُلُونِ ﴿٣٤﴾ وَأَخِي هَارُونُ هُوَ أَفْصَحُ مِنِّي لِسَانًا فَأَرْسَلْهُ مَعِيَ رِدْءًا يُصَدِّقُنِي إِنِّي أَخَافُ أَنْ يُكَذِّبُونِ ﴿٣٥﴾ قَالَ سَنَشُدُّ عَضُدَكَ بِأَخِيكَ وَنَجْعَلُ لَكَ مَا سَأَلْتَنَا فَلَا يَصِلُونَ إِلَيْكَ مَا اتَّيْتَنَا أَنْتُمْ وَمَنْ اتَّبَعَكُمْ مَا الْعَالَمُونَ ﴿٣٦﴾

〔29〕その後ムーサーが10年の期間を満了して家族と一緒にマドヤンからエジプトに旅しているとき、トール山の側に一点の火を認めた。かれは家族に言った。あなた方はここで待っていないさい。わたしは火を認めた。あそこからあなた方にお告げの知らせを持って来よう。または火からたいたまつを持って来て、あなた方に明かりと寒さを防ぐ暖かさをもたらそう。

〔30〕ところがかれが火のところにやって来ると、谷間の右側の祝福された地点にある木からかれを呼ぶ声がした。ムーサーよ、真にわれらはすべての創造の主、アッラーであるぞ。

〔31〕「さあ、あなたの杖を投げよ。」そこでムーサーが命令に従って投げると、それが蛇のように素早く動きまわるのを見た。そしてそれが恐ろしくなって、逃げ出して振り返らなかった。主は言われた。「ムーサーよ、近寄るのだ。そして恐れてはいけない。誠にあなたは、それから、そして他の恐れることから安全なのだ。」

〔32〕「あなたの右手を衣の脇の下に入れよ。何の病気でもないのに、それは白くなる。恐れに対しては、あなたの手を自分の方に引き寄せるのだ。」そうすると恐怖心はおさまってきた。「杖とこの手は、主からフィルアウンとその参謀たちに送られた二つの証拠であった。本当にかれらは、不信仰と罪でアッラーへの服従から離れてしまった人たちであった。」

〔33〕ムーサーは言った。わたしの主よ、わたしは助けを求められたので、コプト教徒の一人を殺しました。だからわたしがかれらに対して伝えるべきメッセージをもたらそうとすると、かれらがわたしを殺すのを恐れます。

〔34〕ただしわたしの兄ハールーンはわたしよりも雄弁です。それでわたしの補佐役として、かれをわたしと一緒に遣わしてください。遣わされた使徒を拒否した民族によく見られたように、わたしはフィルアウンとその人々がわたしを嘘つき呼ばわりすることを恐れるのです。

〔35〕かれはムーサーの嘆願に対して言った。われらはあなたの兄をもって補佐とし、また使徒として同伴させ、あなたを強力にして、またあなた方二人をかれらよりも優勢にするであろう。そうすれば、かれらはあなた方に危害を加えられない。われらの印によって、あなた方二人とあなた方に従う人たちは、フィルアウンとその人々に対して勝利者となるのだ。

本諸節の功德:

- 約束や合意を順守するのは、信者の特質。
- アッラーはムーサーに直接話されたということ。
- アッラーへの唱導者は、支援者を必要とする。
- アッラーに呼び掛ける人たちが、雄弁であることの重要性。

③⑥ ムーサー(平安)がわれらの明白な印をもってかれらの所に来ると、かれらは言った。これは捏造された魔術にすぎない。わたしたちは先祖から、このようなことを聞いたことがない。

③⑦ すると、ムーサーはフィルアウンに言った。わたしの至高なる主は、誰がかれの御元から導きをもって来たか、また誰が最後に素晴らしい結果である、平安の住まいを得るかをすべてご存知だ。不正を行なう人たちは決して成功しないし、その恐怖心から安心できることはないのだ。

③⑧ フィルアウンは言った。参謀たちよ。あなた方のためには、わたし以外の神をわたしは承知していない。だから、ハーマーンよ、わたしのために泥を燃やしてレンガを作り、高殿を築くのだ。そうすればムーサーの神(アッラー)にお目見えして、その元に登れるかも知れない。わたしはかれが使徒として遣わされたというのは、嘘だと思う。

③⑨ かれ(フィルアウン)とかれの軍隊は、エジプトにおいて不当に高慢であった。そして、かれらは復活を拒否し、最後の日にも清算と報奨のために、決してわれらに帰されないと考えていた。

④⑩ だからわれらはかれとかれの軍隊を襲って海に投げ込んで、沈めた。使徒よ、このように、圧政者の末路がどんなものであったかを見るのだ。それは破滅である。

④⑪ われらはかれらが導かれず、不信仰と過ちを広げるので、地獄の火に招き、その先達とした。そして、復活の日にかれらが助けられることはない。むしろその悪習により、罰は倍加される。かれらとその一味の悪行の結果は、遂行されるのだ。

④⑫ また、われらは現世においてかれらにもう一つ別の懲罰、つまり恥辱と追放を見舞ったのだ。復活の日においても、かれらはわれらの慈悲から遠ざけられるのである。

④⑬ 確かに、使徒たちを嘘つきよばわりした昔の多くの世代を滅ぼした後、われらはムーサーに人類のための真理への洞察として、また導きと慈悲として、律法を授けた。その中には人々に、実行するべき役立つこと、また避けるべき有害なことなどの、教えが含まれている。また現世と来世の善と慈悲に導く教えもある。多分かれらはアッラーの与えられる恩寵に思いを馳せて、きっと感謝と信心を示すだろう。

فَلَمَّا جَاءَهُمْ مُوسَى بِآيَاتِنَا بَيِّنَاتٍ قَالُوا مَا هَذَا إِلَّا سِحْرٌ مُّفْتَرًى وَمَا سَمِعْنَا بِهَذَا فِي آبَائِنَا الْأَوَّلِينَ ③⑥
 وَقَالَ مُوسَى رَبِّتِ أَعْلَمُ بِمَنْ جَاءَ بِالْهُدَىٰ مِنْ عِنْدِهِ وَمَنْ تَكُونُ لَهُ عَاقِبَةُ الدَّارِ إِنَّهُ لَا يُفْلِحُ الظَّالِمُونَ ③⑦
 وَقَالَ فِرْعَوْنُ يَا أَيُّهَا الْمَلَأُ مَا عَلِمْتُ لَكُمْ مِنْ إِلَهِ غَيْرِي فَأَوْقِدْ لِي يَهْمَنُ عَلَى الطَّيْنِ فَأَجْعَلَ لِي صَرَحًا لَعَلِّي أُطَّلِعُ إِلَىٰ إِلَهِ مُوسَى وَإِنِّي لأظنُّهُ مِنَ الْكَاذِبِينَ ③⑧
 وَأَسْتَكَرَهُو وَجُنُودُهُ فِي الْأَرْضِ بِغَيْرِ الْحَقِّ وَظَنُّوا أَنَّهُم إِلَيْنَا لَا يُرْجَعُونَ ③⑨ فَأَخَذْنَاهُ وَجُنُودَهُ فَنَبَذْنَاهُمْ فِي الْيَمِّ فَانظُرْ كَيْفَ كَانَتْ عَاقِبَةُ الظَّالِمِينَ ④⑩
 وَجَعَلْنَاهُمْ آيَةً يَدْعُونَ إِلَى التَّارِ وَيَوْمَ الْقِيَامَةِ لَا يُنصَرُونَ ④⑪ وَأَتَّبَعْنَاهُمْ فِي هَذِهِ الدُّنْيَا لَعْنَةً وَيَوْمَ الْقِيَامَةِ هُمْ مِنَ الْمَقْبُوحِينَ ④⑫ وَلَقَدْ آتَيْنَا مُوسَى الْكِتَابَ مِنْ بَعْدِ مَا أَهْلَكْنَا الْقُرُونَ الْأُولَىٰ بَصَائِرَ لِلنَّاسِ وَهُدًى وَرَحْمَةً لَّعَلَّهُمْ يَتَذَكَّرُونَ ④⑬

本諸節の功德:

- 疑わしい議論で真実を拒否するのは、反逆者の習性である。
- 傲慢さは真実の道を妨げる。
- 傲慢な人たちの悪い結果は、全世界の主の慣行である。
- 偽りには、それに導く者、招く者、種々の姿や外見がある。

وَمَا كُنْتَ بِجَانِبِ الْغَرْبِيِّ إِذْ قَضَيْنَا إِلَىٰ مُوسَىٰ الْأَمْرَ وَمَا كُنْتَ مِنَ الشَّاهِدِينَ ﴿٤٤﴾ وَلَكِنَّا أَنشَأْنَا قُرُونًا فَتَطَاوَلَ عَلَيْهِمُ الْعُمُرُ وَمَا كُنْتَ ثَاوِيًا فِي أَهْلِ مَدْيَنَ تَتْلُو عَلَيْهِمْ آيَاتِنَا وَلَكِنَّا كُنَّا مُرْسِلِينَ ﴿٤٥﴾ وَمَا كُنْتَ بِجَانِبِ الطُّورِ إِذْ نَادَيْنَا وَلَكِن رَّحِمَةً مِّن رَّبِّكَ لِنُنذِرَ قَوْمًا مَّا أَتَاهُمْ مِّن نَّذِيرٍ مِّن قَبْلِكَ لَعَلَّهُمْ يَتَذَكَّرُونَ ﴿٤٦﴾ وَلَوْلَا أَن نُّصِيبَهُمْ مُّصِيبَةً بِمَا قَدَّمْتَ أَيْدِيهِمْ فَيَقْتُلُوا رَبَّنَا وَلَوْلَا أَرْسَلْنَا إِلَيْنَا رَسُولًا فَنَتَّبِعَ آيَاتِكَ وَنَكُونُ مِنَ الْمُؤْمِنِينَ ﴿٤٧﴾ فَلَمَّا جَاءَهُمُ الْحَقُّ مِنْ عِنْدِنَا قَالُوا لَوْلَا أَوْتِي مِثْلَ مَا أُوتِيَ مُوسَىٰ أَوْ لَمَّا يَكْفُرُوا بِمَا أُوتِيَ مُوسَىٰ مِنْ قَبْلُ قَالُوا سِحْرَانِ تَظَاهَرَا وَقَالُوا إِنَّا بِكُلِّ كَيْفٍ مِّنْهُ قُلْ فَأَنزِلُوا كِتَابَ مِّنْ عِنْدِ اللَّهِ هُوَ أَهْدَىٰ مِنْهُمَا أَتَّبِعُهُ إِنْ كُنْتُمْ صَادِقِينَ ﴿٤٨﴾ فَإِن لَّمْ يَسْتَجِيبُوا لَكَ فَاعْلَمْ أَنَّمَا يَتَّبِعُونَ أَهْوَاءَهُمْ وَمَنْ أَضَلُّ مِمَّنِ اتَّبَعَ هَوَاهُ بِغَيْرِ هُدًى مِّنَ اللَّهِ إِنَّ اللَّهَ لَا يَهْدِي الْقَوْمَ الظَّالِمِينَ ﴿٤٩﴾

④④使徒よ、われらがムーサーにフィルアウンとその人々へとかれを遣わすとの命令を下したとき、あなたはかれにとって山の西側におらず、またその目撃者のひとりでもなかった。だからあなたが人々に語るの、アッラーからの啓示としてなのである。

④⑤でもわれらはその後多くの世代をもたらし、かれらは長い時間の経過により、アッラーの契約を忘れてしまった。またあなたがマドヤンの民の間に住んで、かれらにわれらの印を読誦したのではなかった。でも、われらは使徒としてあなたを遣わして、ムーサーの出来事とマドヤンの生活を伝えたのだ。それをあなたは人々に伝えていくということになる。

④⑥また、われらがムーサーを呼んで、かれに啓示を下したときも、あなたはシナイ山の傍らにいて、それゆえにその時の話ができるわけではない。でも、あなたもまたあなたの主からの慈悲として遣わされ、その出来事を啓示されたことにより、あなた以前に一人の警告者もやって来なかった民に警告するのだ。そうすれば、かれらは留意して、アッラーからもたらされたものを信じるであろう。

④⑦もしそうしないなら、かれらが先になした罪や不信仰のために、かれらには災厄が襲いかかるだろう。そのときになって、かれらは言うのだ。わたしたちの主よ、もしあなたが使徒をわたしたちに遣わしていたなら、わたしたちはあなたの印に従い、信仰する人たちとなっていたのに。そうはならなかったが、懲罰を食らったわけでもなかったのは、われらがかれらに使徒を遣わして、そうするのを遅らせたからであった。

④⑧でも、われらから使徒によってクライシュ族に真理が届くと、かれらはユダヤ教徒から吹き込まれてこう言った。ムーサーに与えられたのと同じような手や杖や律法が、どうしてかれが預言者だということをはっきりさせるために与えられないのか。しかし使徒よ、かれらに反論

物語章 391 部 20
して言え。ユダヤ教徒たちは以前にも、ムーサーに与えられたものを信じなかったではないか。かれらは言っていたのだ、両方(律法とクルアーン)とも魔術で、それらは互いに支え合っている。わたしたちはどちらも信じないのだ。

④⑨使徒よ、言え。それなら、アッラーの御元から導きの啓典で、これら二つよりも優れたものを持って来い。あなた方が本当にするならば、わたしはそれに従おう。

④⑩そして、もしクライシュ族があなたに代えてより優れた書を持って来ないなら、かれらは何の証拠もなく、自分の欲望に従っているにすぎないことを知れ。アッラーからの導きがなく、自分の欲望に従う人よりも道に迷う人があるのか。誠にアッラーは不信仰を抱き、使徒を拒否し、真実を虚偽で対抗させる人々には、導きを与えられない。

本諸節の功德:

- アッラーの使徒(平安を)は、アッラーが知らせた以外は、見えない世界を知らない。
- 知識は時間がたてば、朽ちるものだ。
- アッラーの預言者たちに対する啓示より良く導くものがあるのか、という挑戦を不信仰者は受けている。
- 不信仰者たちは、その欲望に従うことで迷うのであり、証拠に従っていない。

* وَقَدْ وَصَلْنَا لَهُمُ الْقَوْلَ لَعَلَّهُمْ يَتَذَكَّرُونَ ﴿٥١﴾ الَّذِينَ
 آتَيْنَاهُمُ الْكِتَابَ مِنْ قَبْلِهِ هُمْ بِهِ يُؤْمِنُونَ ﴿٥٢﴾ وَإِذْ آتَيْنَا
 عَلَيْهِمُ قَالُوا إِنَّمَا هِيَ إِتَابَةٌ لِمَا كُنَّا مِنْ قَبْلِهِ
 مُمْسِكِينَ ﴿٥٣﴾ أُولَئِكَ يُؤْتَوْنَ أَجْرَهُمْ مَرَّتَيْنِ بِمَا صَبَرُوا وَيَدْرُءُونَ
 بِالْحَسَنَةِ السَّيِّئَةَ وَمِمَّا رَزَقْنَاهُمْ يُنفِقُونَ ﴿٥٤﴾ وَإِذْ أَسْمِعُوا
 الْأَعْيُنَ عَرَضُوا عَلَيْهِ وَقَالُوا إِنَّا نَعْمَلُنَا وَلَكُمْ أَعْمَلُكُمْ سَلَامٌ
 عَلَيْكُمْ لَا تَبْتَغِي الْجَاهِلِينَ ﴿٥٥﴾ إِنَّكَ لَا تَهْدِي مَنْ أَحْبَبْتَ
 وَلَكِنَّ اللَّهَ يَهْدِي مَنْ يَشَاءُ وَهُوَ أَعْلَمُ بِالْمُهْتَدِينَ ﴿٥٦﴾
 وَقَالُوا إِن تَتَّبِعِ الْهَيْدَىٰ مَعَكَ نَتَّخِظُكَ مِنَ الْغِيظِ أَوْ لَوْ
 نُمِيزُكَ لَكُنَّا بِكَ حَرَمًا إِنَّمَا يَجْعَبِي إِلَيْهِ ثَمَرْتُ كُلِّ شَيْءٍ رِزْقًا
 مِّنْ لَّدُنَّا وَلَكِنَّ أَكْثَرَهُمْ لَا يَعْلَمُونَ ﴿٥٧﴾ وَكَمْ أَهْلَكْنَا
 قَبْلَهُ بِطَرَفِ عِيشَتِهِ قَاتِلًا فَتَلَّكَ مَسَكِنُهُمْ لَمْ تُسْكَنْ مِّنْ
 بَعْدِهِمْ إِلَّا قَلِيلًا وَكُنَّا نَحْنُ الْوَارِثِينَ ﴿٥٨﴾ وَمَا كَانَتْ رُبُكَ
 مُهْلِكِ الْقُرَىٰ حَتَّىٰ يَبْعَثَ فِي أُمِّهَا رَسُولًا يَتْلُو عَلَيْهِمْ
 آيَاتِنَا وَمَا كُنَّا مُهْلِكِي الْقُرَىٰ إِلَّا وَأَهْلُهَا ظَالِمُونَ ﴿٥٩﴾

51 確かにわれらは多神教徒とユダヤ教徒たちにも、以前の諸国の事や、使徒たちを嘘つきよばわりしたことによる懲罰の話に関する言葉を届けた。そうすることで、かれらが使徒たちを拒否しないようにして、信仰心を持ち、以前に下された懲罰から免れるように願ったのだ。

52 クルアーンが下される以前に律法を信じた人たちは、クルアーンを信じる。というのは、かれら自身の啓典において知らせが含まれており、そこにクルアーンのことがかかれているからだ。

53 そしてそれがかれらに読誦されるとかれらは言う。わたしたちはそれを疑いないものとして信じる。確かにそれは、わたしたちの主から啓示された真理である。わたしたちがクルアーン以前からムスリム(訳者注:アッラーに従う人)であったのは、使徒たちがもたらしたものを信じていたからだ。

54 これらの人たちには2倍の報奨が与えられる。なぜなら、かれらは耐え忍んで自身の啓典を信じていたし、ムハンマド(平安を)が遣わされてからはかれを信じたのである。かれらは善行をもって罪の悪を退け、われらが糧として与えたものから施すのである。

55 またこういった啓典の民の信者たちが虚偽の話を耳にすると、かれらは背を向けて言う。「わたしたちには、わたしたちの行ないがあり、あなた方には、あなた方の行いがあり、それについて報いがある。あなた方はわたしたちに悪口を言われたり、損害を加えられたりしないで安全である。わたしたちは無知な人たちを相手にしない。かれらは宗教において害悪を働き、現世の生活にも被害を及ぼすのだ。」

56 使徒よ、確かにあなたは誰であれ、アブー・ターリブなど、自分が好む人を導くというのではない。アッラーは、信仰を望む者を御心のままに導かれる。本当にかれは、誰がまっすぐな道に導かれる人であるかを熟知している。

57 マッカの多神教徒たちは言った。イスラームの信仰を避けつつ、「もしわたしたちがあなたと一緒にその導きに従うなら、わたしたちはわたしたちの土地から敵によってつまみ出されるだろう。」われらはかれらのために、流血や迫害が許されない禁忌のある領域を確立して、われらからの糧としてすべての果実をそこにもたらしたではないか。でもかれらの多くは、アッラーの恩寵が分らず、感謝もしていない。

58 われらは生活が豪勢で享楽に満ちてはいるが、感謝を知らないどれほど多くの罪と不服従に満ちていた町を滅ぼしたことか。われらはかれらを破滅させ、崩壊させた。そういうところでは、かれら以後、かれらの住居は崩壊して、人は通り過ぎるだけである。少しの旅人を除いては、ほとんど誰にも住まれていない。そしてわれらこそが、諸天、地上、そしてその全員を相続する者なのである。

59 使徒よ、あなたの主は町々を何の前置きもなく滅ぼす方ではない。かれらに言い訳ができなくなるよう、その中でも最大の町に使徒を遣わすまでは、滅ぼさないのだ。ちょうどあなたを町々の母である、マッカに遣わしたように。またわれらはその人々が罪と不信仰で、不正な人々でない限り、町々を滅ぼすことはない。

本諸節の功德:

- 啓典の民でムハンマド(平安を)を信じる人には、功德があり、倍の報いがある。
- 導きを受けられるかどうかは、アッラーの手中にあり、それは使徒らの手中にはない。
- 真実に従うことは、平和への道であり、多神教徒が言うように、恐怖の原因ではない。
- 過剰さは、個人と社会の危機である。
- 人々に使徒を遣わして信じる機会を与えないで破壊させることはない。これはアッラーの恩寵である。

وَمَا أُوْتِيتُمْ مِنْ شَيْءٍ فَمَتَّعُ الْحَيَاةَ الدُّنْيَا وَرَبِّتْنَاهَا وَمَاعِنَدَ
 اللَّهِ خَيْرٌ وَأَبْقَى أَفَلَا تَعْقِلُونَ ﴿٦٠﴾ أَفَمَنْ وَعَدْنَاهُ وَعَدَّا حَسَنًا
 فَهُوَ لَيْقِيهِ كَمَنْ مَتَّعْنَاهُ مَتَّعَةَ الْحَيَاةِ الدُّنْيَا ثُمَّ هُوَ يَوْمَ الْقِيَامَةِ
 مِنَ الْمُحْضَرِّينَ ﴿٦١﴾ وَيَوْمَ ينادِيهِمْ فَيَقُولُ أَيْنَ شُرَكَاءِي
 الَّذِينَ كُنْتُمْ تَزْعُمُونَ ﴿٦٢﴾ قَالَ الَّذِينَ حَقَّ عَلَيْهِمُ الْقَوْلُ رَبَّنَا
 هَؤُلَاءِ الَّذِينَ أَغْوَيْنَا أَغْوَيْنَاهُمْ كَمَا غَوَيْتَ تَبَرَّأْنَا إِلَيْكَ
 مَا كَانُوا إِلَّا نَانًا بَعْدُونَ ﴿٦٣﴾ وَقِيلَ ادْعُوا شُرَكَاءَكُمْ فَدَعَوْهُمُ
 فَأَلَمَ يَسْتَجِيبُوا لَهُمْ وَرَأَوُا الْعَذَابَ لَوْ أَنَّهُمْ كَانُوا يَهْتَدُونَ
 ﴿٦٤﴾ وَيَوْمَ ينادِيهِمْ فَيَقُولُ مَاذَا أَجَبْتُمُ الْمُرْسَلِينَ ﴿٦٥﴾
 فَحَمِيتَ عَلَيْهِمُ الْآنْبَاءَ يَوْمَ مِذْيَقِهِمْ لَا يَنْسَاءُ لُونُ ﴿٦٦﴾ فَأَمَّا
 مَنْ تَابَ وَآمَنَ وَعَمِلَ صَالِحًا فَعَسَىٰ أَنْ يَكُونَ مِنَ الْمُفْلِحِينَ
 ﴿٦٧﴾ وَرَبُّكَ يَخْلُقُ مَا يَشَاءُ وَيَخْتَارُ مَا كَانَ لَهُمُ الْخِيَرَةُ سُبْحَانَ
 اللَّهِ وَتَعَالَىٰ عَمَّا يُشْرِكُونَ ﴿٦٨﴾ وَرَبُّكَ يَعْلَمُ مَا تُكِنُّ
 صُدُورُهُمْ وَمَا يُعْلِنُونَ ﴿٦٩﴾ وَهُوَ اللَّهُ لَا إِلَهَ إِلَّا هُوَ لَهُ
 الْحَمْدُ فِي الْأُولَىٰ وَالْآخِرَةِ وَلَهُ الْحُكْمُ وَإِلَيْهِ تُرْجَعُونَ ﴿٧٠﴾

多神教徒たちが戦争や交易中断といった困難さのために、真実に従うことを辞退した時、アッラーは次のように応答された。

60 主があなた方に現世の生活で与えられたものは、享楽とその虚飾にすぎない。それらは終了する。しかし、来世でアッラーの御元にある偉大な報奨こそ、善美で永遠なのである。それでも、あなた方は理知を働かせて永遠のものを好まないで、終わるものを選ぶのか。

61 われらが楽園とそこでの永遠の快樂を来世において約束した人と、われらが現世の生活の富と虚飾を与えたが、審判の日には地獄の火へと召集される人とは、同類なのであろうか。

62 その日、かれはかれらに呼びかけて言う。あなた方が祈っていたわれの同位者というものはどこにいるのか。

63 不信仰を唱導したために、処罰の裁決が、明らかになった不信仰者たちは言う。わたしたちの主よ、これらはわたしたちが迷わせた人々だ。そして、わたしたち自身も迷っていたのだ。わたしたちは、あなたに向かってかれらは縁切りする。かれら不信仰者はわたしたちを崇拜していたのではなく、悪魔を崇拜していたのだ。

64 するとかれらに言われる。「あなた方の同位者を呼べ。そしてあなた方の恥辱から救ってもらおうがいい。」かれらはそれらの神々を呼ぶが、応えない。かれらは苦痛を目の当たりにする。もしかれらが真実に導かれていたなら、処罰されることもなかったのに。

65 その審判の日、かれはかれら不信仰者たちを呼んで言う。「あなた方は使徒たちに何と応えたのか。」

66 その日、論証はかれらに隠されたように曖昧となり、何も言わない。ショックのために、かれらは互いに尋ね合うこともできない。かれらは懲罰に向かっていることを、確実に知るのである。

67 でも、改心してアッラーと使徒たちを信仰し、善行に勤しんだ人は、望んでいたものを獲得する成功者の一人となり、恐れていたものから救われるだろう。

68 使徒よ、あなたの主は、御心のものを創り、また服従と預言者としての任務のために御心にかなった者を選ばれる。一方多神教徒たちはアッラーには反論できず、選ぶことができない。かれはかれらが同位を配する偶像と違って、純粋で遥か上に高くおられるのだ。

69 またあなたの主は、かれらの胸に隠すことも現わすことも知っている。何も隠せず、それについて報いるのだ。

70 かれこそはアッラー、かれの他に神はいない。かれにこの世とあの世におけるすべての称賛があり、裁決もかれにあり、何もそれに反対できない。また審判の日には清算と報いのために、あなた方はかれに帰される。

本諸節の功德:

- 賢明な人とは、永遠を時限あるものよりも好む人である。
- 改心こそはすべてを消去してくれる。
- 選ばれるのはアッラーであり、僕たちにはそれはなく、アッラーに背くこともできない。
- 僕の諸行為は、隠そうが露呈しようが、アッラーがすべて知り尽くされるものだ。

قُلْ أَرَأَيْتُمْ إِنْ جَعَلَ اللَّهُ عَلَيْكُمُ اللَّيْلَ سَرْمَدًا إِلَى يَوْمِ
الْقِيَامَةِ مَنْ إِلَهٌ غَيْرُ اللَّهِ يَأْتِيكُمْ بِضِيَاءٍ أَوْ لَظْلَمًا تَسْمَعُونَ
﴿٧٦﴾ قُلْ أَرَأَيْتُمْ إِنْ جَعَلَ اللَّهُ عَلَيْكُمُ النَّهَارَ سَرْمَدًا إِلَى
يَوْمِ الْقِيَامَةِ مَنْ إِلَهٌ غَيْرُ اللَّهِ يَأْتِيكُمْ بِاللَّيْلِ تَسْكُونُونَ
فِيهِ أَوْ لَظْلَمًا تَبْصُرُونَ ﴿٧٧﴾ وَمِنْ رَحْمَتِهِ جَعَلَ لَكُمُ اللَّيْلَ
وَالنَّهَارَ لِتَسْكُنُوا فِيهِ وَلِتَبْتَغُوا مِنْ فَضْلِهِ وَلَعَلَّكُمْ
تَشْكُرُونَ ﴿٧٨﴾ وَيَوْمَ يُنَادِيهِمْ فَيَقُولُ أَيْنَ شُرَكَاءِي الَّذِينَ
كُنْتُمْ تَرْعَمُونَ ﴿٧٩﴾ وَذَرَعْنَا مِنْ كُلِّ أُمَّةٍ شَهِيدًا فَقُلْنَا
هَاتُوا بُرْهَانَكُمْ فَعَلِمُوا أَنَّ الْحَقَّ لِلَّهِ وَضَلَّ عَنْهُمْ
مَا كَانُوا يَفْتَرُونَ ﴿٨٠﴾ إِنَّ قَدْرُونَ كَانَتْ مِنْ قَوْمِ مُوسَى
فَبَغَى عَلَيْهِمْ وَآتَيْنَاهُ مِنَ الْكُنُوزِ مَا إِنَّ مَفَاتِحَهُ لَتَنُودًا
بِالْعَصْبَةِ أُولَى الْقُوَّةِ إِذْ قَالَ لَهُ وَقَوْمَهُ لَا تَفْرَحُوا بِإِتِّ اللَّهِ
لَا يُحِبُّ الْفَرِحِينَ ﴿٨١﴾ وَابْتَغِ فِيمَا آتَاكَ اللَّهُ الدَّارَ الْآخِرَةَ
وَلَا تَنْسَ نَصِيبَكَ مِنَ الدُّنْيَا وَأَحْسِنْ كَمَا أَحْسَنَ اللَّهُ إِلَيْكَ
وَلَا تَبْغِ الْفَسَادَ فِي الْأَرْضِ إِنَّ اللَّهَ لَا يُحِبُّ الْمُفْسِدِينَ ﴿٨٢﴾

الجزء

﴿74﴾ 使徒よ、多神教徒たちに言え。あなた方は考えたのか。もしアッラーが復活の日まで続く夜を設けたなら、アッラーの他にどんな神があなた方に光を与えられるのか。あなた方はこれらの証拠を聞かないのか、そしてそれをもたらすことができるのは、アッラーしかいないことを知らないのか。

﴿75﴾ 言え。あなた方は考えないのか。もしアッラーが復活の日まで続く昼を設けたなら、アッラーの他にどんな神があなた方に休息するための夜を与えられるのであろうか。あなた方はこれらの印を見ないのか、そしてそれをもたらすことができるのは、アッラーしかいないことを知らないのか。

﴿76﴾ かれの慈悲によって、かれは夜と昼をあなた方のために設け、それであなた方は夜に休み、また昼にかれの恩恵を求めることができるのだ。そしておそらくあなた方は、その恵みに感謝し、恩知らずにはならないだろう。

﴿77﴾ その審判の日、かれはかれらに呼びかけて言う。あなた方が祈っていた、わたしの同位者というものはどこにいるのか。

﴿78﴾ われらはすべての共同体から、証人を出させて不信仰と真実拒否に関して言う。あなた方の不信仰と真実拒否の正しいことを証明する証拠を持って来るがよい。そのとき、かれらは言い訳ができず、真理がアッラーだけのものであることを知る。そして、かれらが捏造していた同位者たちは、かれらから離れ去る。

アッラーは、フィルアウンが権力のために地上で奢り高ぶっていたことに言及して、富のために度を越していたカールーンについて言われる。

﴿79﴾ 確かにカールーンはムーサー(平安を)の民の一人だったが、イスラエールの子孫を抑圧した。またわれらは、かれに財宝を与えた。確かにその宝庫の鍵は、屈強な男たちの集団をもってしても重かった。かれの人々は、かれに言った。「浮かれているはいけぬ。誠にアッラーは、浮かれている人を好まれないのだ。むしろそのような人を嫌われて、浮かれていることで処罰されるのだ。」

﴿80﴾ 「またアッラーがあなたに与えた資財を善のために支出することで、来世の住まいという報奨を請い求め、この世における食料、飲料、衣類などを恵みとして、あなたの妥当な分け前を忘れないように。そしてアッラーがあなたに善くしてきたように、あなたも主とその僕に対して、善行をするのだ。地上において、罪をなし、服従を手放すことで、腐敗を広げてはいけぬ。誠にアッラーは、地上で腐敗を広げる人を好まれず、実際嫌われるのである。」

本諸節の功德:

- 昼夜の継続は恵みであり、それゆえにアッラーに対して感謝すべきである。
- 支配権力や王権のように富は横暴の原因となるかもしれない。
- 傲慢に喜ぶことは、アッラーが嫌われる罪である。
- 誘惑されそうな人に誠実に助言することは、重要である。
- アッラーは、地上の腐敗者を好まれない。

قَالَ إِنَّمَا أُوتِيْتُهُ وَعَلَىٰ عِلْمٍ عِنْدِي أَوَلَمْ يَعْلَم أَنَّ اللَّهَ قَدْ أَهْلَكَ
 مِنْ قَبْلِهِ مِنْ الْقُرُونِ مَنْ هُوَ أَشَدُّ مِنْهُ قُوَّةً وَأَكْثَرُ جَمْعًا
 وَلَا يُسْتَلْعَنَ عَنْ ذُنُوبِهِمْ الْمَجْرُمُونَ ﴿٧٨﴾ فَخَرَجَ عَلَىٰ قَوْمِهِ
 فِي زِينَتِهِ قَالِ الَّذِينَ يُرِيدُونَ الْحَيَاةَ الدُّنْيَا لِيَلْبِتَ لَنَا
 مِثْلَ مَا أُوتِيَ قُرُونُ إِنَّهُ لَذُو حَظٍّ عَظِيمٍ ﴿٧٩﴾ وَقَالَ الَّذِينَ
 أُوتُوا الْعِلْمَ وَيَلَكُمْ ثَوَابُ اللَّهِ خَيْرٌ لِمَنْ ءَامَنَ وَعَمِلَ
 صَالِحًا وَلَا يُلْقِيهَا إِلَّا الصَّادِقُونَ ﴿٨٠﴾ فَخَسَفْنَا بِهِ
 وَبِدَارِهِ الْأَرْضَ فَمَا كَانَ لَهُ مِنْ فِئَةٍ يَبْصُرُونَهُ مِنْ دُونِ
 اللَّهِ وَمَا كَانَ مِنَ الْمُنْتَصِرِينَ ﴿٨١﴾ وَأَصْبَحَ الَّذِينَ تَمَتَّوْا
 مَكَانَهُ بِالْأُمَمِ يَقُولُونَ وَيَكَانَ اللَّهُ يَبْسُطُ الرِّزْقَ لِمَنْ
 يَشَاءُ مِنْ عِبَادِهِ وَيَقْدِرُ لَوْ أَنَّ مِنَ اللَّهِ عَلَيْنَا لَخَسَفَ بِنَا
 وَيَكَانَهُ لَا يَفْلَحُ الْكُفْرُونَ ﴿٨٢﴾ تِلْكَ الدَّارُ الْآخِرَةُ نَجْعَلُهَا
 لِلَّذِينَ لَا يَرِيدُونَ عُلُوًّا فِي الْأَرْضِ وَلَا فِسَادًا وَأَلْعَاقِبَةُ لِلْمُتَّقِينَ
 ﴿٨٣﴾ مَنْ جَاءَ بِالْحَسَنَةِ فَلَهُ خَيْرٌ مِمَّا هُوَ وَمَنْ جَاءَ بِالسَّيِّئَةِ فَلَا
 يُجْزَى الَّذِينَ عَمِلُوا السَّيِّئَاتِ إِلَّا مَا كَانُوا يَعْمَلُونَ ﴿٨٤﴾

して成功しないし、かれらの将来と結末は両世界において損失だけなのだ。]

⑦⑨ カールーンは言った。「この財宝を授かったのは、わたし
 が持っている知識と能力のおかげである。わたしはその
 財宝を持つ資格がある。」しかしアッラーがかれ以前に
 もっと強くもっと裕福だった多くの世代を滅ぼしたことを、
 かれは知らないのか。以前の世代で、力はかれよりも
 強く、蓄えもより巨額なものもいたが、それらは役に立た
 なかった。最後の審判の日に、罪深い人たちは、かれらの
 罪について問い正されることはない。というのは、アッラー
 はすべてを知っているからだ。質問されるとすれば、それ
 は叱責と非難のためである。

⑦⑩ そこでかれは身を飾って、富と地位を見せびらかしな
 がら、人々の中に出て行った。現世の生活を望んでいる
 かれの同伴者は言った。「ああ、カールーンに与えられた
 ようなものが、わたしたちにも与えられたらばいいの
 になあ。実にかれは、大変な幸運の持ち主だ。]

⑧⑩ でも、知識を授かった人たちは、飾りに身をまとったカ
 ルーンを見、かれの同伴者の言うことを聞いて、言っ
 た。「情けないことを言ってはいけない。信仰して善行に
 励む人にとって、アッラーの来世の報奨こそ、現世のすば
 らしいものよりも一段と優れているのだ。このようなこと
 は、現世の享楽よりアッラーの報奨を好む忍耐強い人し
 か、言うことも実行することもできないものだ。]

⑧⑪ その後われらは、かれの逸脱に対して報いるため
 に、かれとかれの住まいのすべてを大地に飲み込ませ
 た。結局アッラーに対しては、かれを助ける一団もなく、ま
 たかれは自分を助けられる者にもなれなかった。

⑧⑫ その後、その前日までかれの富や飾りを望んでいた
 人たちは、言い始めた。「ああ、誠にアッラーは、かれが望
 む僕たちに糧を豊かにし、あるいは制限して与えるので
 ある。もしアッラーの恩寵がなかったなら、かれはさんざ
 んなことを言ってきたわたしたちを大地に飲み込ませて
 いただろう。ああ、不信仰者たちは現世でも来世でも、決

⑧⑬ 来世の住まいとは、地上において信仰と信者から背くことで傲慢となることを求めず、また腐敗を望まない人々のために、われ
 らがもうける快樂と名誉の住まいなのだ。そして樂園のすばらしい結果とそこでアッラーの与える快樂は、主の命令に従い禁止を
 守ることで、アッラーを畏れる人たちに与えられるのだ。

⑧⑭ 最後の審判の日に、礼拝、喜捨、断食などの善行を持って来る人には、その10倍にもなる善い報奨を与える。しかし不信仰、利
 子をむさぼること、姦通などの悪行を持って来る人には、増加はされずに、かれらがしてきたことに応じてのみ報いられる。

本諸節の功德:

- 人の持つ善と恩寵は、すべてアッラーが創られ、命じられたものである。
- 知識の人たちは、知恵と試練からの救いの人々である。というのは、知識は人を正しい道に導くからである。
- 地上の傲慢と尊大さ、そして腐敗を広めることの結末は、破滅と損失である。
- 信者の善を増幅させて、不信仰者の悪はそうされないのは、アッラーの慈悲の寛大さと公正さからである。

85) 確かに、クルアーンをあなたに下した**かれ**は、あなたにそれを伝えてそれに則って行動するように命じられ、マッカに勝利して戻される。使徒よ、かれらに言え。「わたしの主は、誰が導きをもたらし、また誰が明白に導きと真実から迷っているかを最もよくご存知である。」

86) 使徒よ、あなたの主から、クルアーンがあなたに啓示として下されたことは、あなたが予期しなかったことだ。しかしアッラーの慈悲としてそれは下されたのだから、決して過ちにある不信仰者を支援してはいけない。

87) あなたに啓示された後、不信仰者にアッラーの印からあなたを遠ざかせ、その読誦と伝達を放棄させてはいけない。アッラーの唯一性を宣明して、その法規に則り、あなたの主に人々を招くのだ。そして多神教徒の一人とならずに、その唯一性を唱え、アッラーのみに仕えるものとなれ。

88) またアッラーと一緒に、他の神を崇拜してはいけない。**かれ**の他に神はいない。**かれ**のご尊顔の他、すべてのものは消滅する。**かれ**に裁決はあり、望みのままにお裁きになる。審判の日、清算と報いのために、**かれ**のみにあなた方は帰される。

29. 蜘蛛章(アル・アンカブト)

マッカ啓示

本章の趣旨:

試練と逆境における忍耐と堅固さを命じ、またそれらの結末が良好なことの説明。

説明:

1) アリフ・ラーム・ミーム。このような文字については、雌牛章の初めに説明した。

2) 人々は、わたしたちは信じますと言えば、その真意を問われることもなく、試みられることもなく、放って置かれると考えるのか。

3) 確かに、**われら**はかれら以前の人々を試みた。アッラーは信仰に誠実な人を知り、また**かれ**は嘘つきも知っている。

4) もしくは多神信仰など悪を行なう人々は、**われら**から逃れて、懲罰を免れることができると考えているのか。かれらがそう判断することこそ災いで、アッラーをやりすごすことはできない。不信仰のまま亡くなると、その懲罰を逃れることはできない。

5) 審判の日にアッラーに会って報いを得ることを切望する人よ、確かにアッラーの定められた期限はすぐにやって来る。**かれ**は僕の言葉をすべて聞いて全聴であり、その行動すべてについて、隠されることはなく全知であり、それらに対して報われるのである。

6) アッラーの道において導きへ向かって努力し、不信仰を避けるように奮闘努力する人は、自分自身のために奮闘努力しているのだ。アッラーは自存されており、いかなる被造物からも何一つ求められない。主に対しては僕が服従しても増加するものはなく、僕が不信仰に陥ったとしてもそれがかれから減じるものは何もないのである。

本諸節の功德:

- 迷妄の民の援助は、禁じられている。
- アッラーの唯一であることを固守して、多神教から遠ざかることが命じられている。
- 信者に試練を与えて試みて、かれらをテストされることは、アッラーの慣行である。
- アッラーは自存される。その僕の服従を必要とされず、またそこから受益されることもない。

سُورَةُ الْعَنْكَبُوتِ

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

1) أَحْسِبَ النَّاسَ أَنْ يُتْرَكُوا أَنْ يَقُولُوا آمَنَّا وَهُمْ لَا يُفْتَنُونَ 2) وَلَقَدْ فَتَنَّا الَّذِينَ مِنْ قَبْلِهِمْ فَلَيَعْلَمَنَّ اللَّهُ الَّذِينَ صَدَقُوا وَلَيَعْلَمَنَّ الْكَاذِبِينَ 3) أَمْ حَسِبَ الَّذِينَ يَعْمَلُونَ السَّيِّئَاتِ أَنْ يَسْفِقُونَا سَاءَ مَا يَحْكُمُونَ 4) مَنْ كَانَ يَرْجُوا لِقَاءَ اللَّهِ فَإِنْ أَجَلَ اللَّهُ آلَاتٍ وَهُوَ السَّمِيعُ الْعَلِيمُ 5) وَمَنْ جَاهَدَ فَإِنَّمَا يُجَاهِدُ لِنَفْسِهِ إِنَّ اللَّهَ لَغَنِيٌّ عَنِ الْعَالَمِينَ 6)

وَالَّذِينَ ءَامَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ لَنُكَفِّرَنَّ عَنْهُمْ سَيِّئَاتِهِمْ
 وَلَنَجْزِيَنَّهُمْ أَحْسَنَ الَّذِي كَانُوا يَعْمَلُونَ ﴿٧﴾ وَوَصَّيْنَا الْإِنْسَانَ
 بِوَالِدَيْهِ حُسْنًا وَإِنْ جَاهَدَاكَ لِتُشْرِكَ بِي مَا لَيْسَ لَكَ بِهِ عِلْمٌ
 فَلَا تُطِعْهُمَا إِلَيَّ مَرْجِعُكُمْ فَأُنَبِّئُكُمْ بِمَا كُنْتُمْ تَعْمَلُونَ ﴿٨﴾
 وَالَّذِينَ ءَامَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ لَنُدْخِلَنَّهُمْ فِي الصَّالِحِينَ
 ﴿٩﴾ وَمِنَ النَّاسِ مَن يَقُولُ ءَامَنَّا بِاللَّهِ فَإِذَا أُوذِيَ فِي اللَّهِ جَعَلَ
 وِتْنَةً لِلنَّاسِ كَعَذَابِ اللَّهِ وَلَئِن جَاءَ نَصْرٌ مِّن رَّبِّكَ لَيَقُولُنَّ
 إِنَّا كُنَّا مَعَكُمْ أَوْلَىٰ آلَيْسَ بِاللَّهِ بِأَعْلَمَ بِمَا فِي صُدُورِ الْعَالَمِينَ
 ﴿١٠﴾ وَلَيَعْلَمَنَّ اللَّهُ الَّذِينَ ءَامَنُوا وَلَيَعْلَمَنَّ الْمُنَافِقِينَ
 ﴿١١﴾ وَقَالَ الَّذِينَ كَفَرُوا لِلَّذِينَ ءَامَنُوا اتَّبِعُوا سَبِيلَنَا
 وَلْنَحْمِلْ خَطِيئَتَكُمْ وَمَاهُمْ بِمَحْمُولِينَ ﴿١٢﴾ مِّنْ خَطِيئَتِهِمْ
 شَيْءٌ إِنَّهُمْ لَكَاذِبُونَ ﴿١٣﴾ وَلَيَحْمِلُنَّ أَثْقَالَهُمْ وَأَثْقَالًا مَّعَ
 أَثْقَالِهِمْ وَلَيَسْئَلُنَّ يَوْمَ الْقِيَامَةِ عَمَّا كَانُوا يَفْتُرُونَ
 ﴿١٤﴾ وَلَقَدْ أَرْسَلْنَا نُوحًا إِلَىٰ قَوْمِهِ فَلَبِثَ فِيهِمْ أَلْفَ سَنَةٍ
 إِلَّا حَمْسِينَ عَامًا فَأَخَذَهُمُ الطُّوفَانُ وَهُمْ ظَالِمُونَ ﴿١٥﴾

しかし、かれらは少しもあなた方の罪を負うことはなく、ただ嘘をついているだけなのだ。

不信仰者たちが他人の罪を負うことは出来ないとすると、人々を迷妄へと招くというかれらの罪は割増しにならないような印象がある。しかし、そうではないことは次の節で否定される。

⑬一方、多神教へと呼び掛けたかれらは自分の重荷を負い、さらにはかれらが迷わせた人の重荷も負うのである。その際、迷わされた人の罪が減少されることはない。そして復活の日には、かれらが捏造していた嘘について必ずかれらは問い正されるのである。

⑭確かに、われらはヌーフをかれの民に遣わした。かれは人々の間に、950年間留まって、アッラーの唯一性を説いていた。しかしかれらがアッラーを信じず預言者を拒否することで不正を行ない、不信仰を続けている間に、洪水でかれらは破滅させられた。

本諸節の功德:

- 善行を通じて、アッラーは悪行を消去される。
- 両親に孝行する義務。
- アッラーへの信仰は、その道における害に対する忍耐を求められることもある。
- 悪い慣行を作る人は、その人個人の責任に加えて、その慣行に従った人たちの責任も同時に負うこととなる。その際には、少しも従った人たちの責任が減じられることはない。

⑦われらは信仰して試練に我慢強く善行に努めた人々には、かれらの罪を取り消し、来世ではかれらが現世で行なってきた最善のことに報いる。

⑧われらは人間に、親に対して正しく善くあるように命じた。ただし、もし両親があなたに知識がないものをわれに配するように強いるなら、かれらに従ってはいけない。それはちょうど、サアド・イブン・アビー・ワッカースに起こったことである。創造主に反して被造物に従うことはあり得ないのだ。われにのみあなた方の帰り所はあり、そのとき、われはあなた方が現世で行なってきたことを告げるのだ。そしてそれに従って、報いるのである。

⑨信仰して善行に勤しむ人を、われらは必ず審判の日には、正しい人々の中に入らせる。そうしてかれらの地位を向上させて、かれらに報奨を与えるのだ。

⑩人々の中には、わたしたちはアッラーを信仰すると言う人がいる。ところが、かれが不信仰者たちからその信仰のために苦難に会うと、かれは人々からの試練をまるでアッラーの懲罰のようにみなしてしまう。そして不信仰者たちに同調するために、信仰を破棄するのだ。しかし、もしあなたの主からの助けが来ると、確かにわたしはあなた方信者たちと一緒にと言う。アッラーはすべての世界の人の胸の中にあるものを、最もよくご存知で、不信仰であれ信仰であれ、隠せるものはないのだ。かれが一番よく知っているというのに、どうやってかれらは自分たちの心の内を、アッラーに知らせるといえるのか。

⑪アッラーは真に信仰する人々も、信仰を見せかけてはいるが不信仰を隠している偽信者たちのことも明確にされる。

⑫不信仰の人々は、アッラーを信仰する人々に向かって言った。「わたしたちの教えの道に従うがよい。わたしたちがあなた方の罪を、責任をもって負うから。」しかし、

فَأَجْبِنَةً وَأَصْحَابَ السَّفِينَةِ وَجَعَلْنَاهَا آيَةً لِلْعَالَمِينَ
 ١٥ وَإِبْرَاهِيمَ إِذْ قَالَ لِقَوْمِهِ أَعْبُدُوا اللَّهَ وَاتَّقُوهُ ذَلِكُمْ
 خَيْرٌ لَّكُمْ إِنْ كُنْتُمْ تَعْمُونَ ١٦ إِنَّمَا تَعْبُدُونَ مِنْ
 دُونِ اللَّهِ أَوتُنَانًا وَمِخْلَقُونَ إِنْ كُنْتُمْ إِنْ الَّذِينَ تَعْبُدُونَ مِنْ
 دُونِ اللَّهِ لَا يَمْلِكُونَ لَكُمْ رِزْقًا فَابْتَغُوا عِنْدَ اللَّهِ الرِّزْقَ
 وَاعْبُدُوهُ وَأَشْكُرُوا لِلَّهِ إِلَيْهِ تَرْجِعُونَ ١٧ وَإِنْ تَكْذِبُوا
 فَقَدْ كَذَّبْتُمْ مِنْ قَبْلِكُمْ وَمَا عَلَى الرَّسُولِ إِلَّا الْبَلَاغُ
 الْمُبِينُ ١٨ أَوَلَمْ يَرَوْا كَيْفَ يُبْدِئُ اللَّهُ الْخَلْقَ ثُمَّ
 يُعِيدُهُ إِنَّ ذَلِكَ عَلَى اللَّهِ يَسِيرٌ ١٩ قُلْ سِيرُوا فِي الْأَرْضِ
 فَانظُرُوا كَيْفَ بَدَأَ الْخَلْقَ ثُمَّ اللَّهُ يُنشِئُ النَّشْأَةَ الْآخِرَةَ
 إِنَّ اللَّهَ عَلَىٰ كُلِّ شَيْءٍ قَدِيرٌ ٢٠ يُعَذِّبُ مَنْ يَشَاءُ وَيَرْحَمُ
 مَنْ يَشَاءُ وَإِلَيْهِ تُقْلَبُونَ ٢١ وَمَا أَنْتُمْ بِمُعْجِزِينَ فِي
 الْأَرْضِ وَلَا فِي السَّمَاءِ وَمَا لَكُمْ مِنْ دُونِ اللَّهِ مِنْ
 وَلِيٍّ وَلَا نَصِيرٍ ٢٢ وَالَّذِينَ كَفَرُوا بِآيَاتِ اللَّهِ وَلِقَائِهِ
 أُولَٰئِكَ يُسْأَلُونَ مِنْ رَحْمَتِي وَأُولَٰئِكَ لَهُمْ عَذَابٌ أَلِيمٌ ٢٣

15 だからわれらはかれと方舟の仲間とを水没から救い、それをすべての人々のための諭しとした。

16 また、イブラーヒームがかれの民にこう言ったときのこと。「アッラーだけに仕え、かれの懲罰を恐れ、禁止を守り、かれを畏れよ。もしあなた方が何が善いかを理解したいのなら、それがあなた方のために最も善いのである。

17 あなた方はアッラーを差し置いて益にも害にもならない偶像に仕え、それが礼拝に値すると言って虚偽を作りあげているにすぎない。あなた方がアッラーを差し置いて仕える偶像たちは、あなた方に与えるべき糧を与える力はない。だから、アッラーからのみ糧を求め、かれだけに仕え、かれにのみその恵みに対して感謝しなさい。あなた方は審判の日には、清算と報奨のためにかれの御元にもみ帰されるのであって、偶像の所ではない。

18 多神教徒たちよ、もしあなた方がムハンマド(平安の)のもたらしたものを拒否するなら、確かにあなた方以前の諸民族も拒否した。ヌーフの民、アードの民、サムードの民などである。使徒の務めは、ただ明瞭に啓示を伝え、使徒は主に命じられてあなた方に伝えるべきことは伝えただけであった。

19 かれらはアッラーがいかに創造を始め、それから終了後にはそれを復活させるのを見ないのか。真にそれはアッラーには容易なことで、何もかれの力を越える者はいなくて、いかに強力かということである。

20 使徒よ、復活を否定する者たちに言え。「地上を旅して観察してみよ。かれがいかに創造を始めたかを見るのだ。やがてアッラーは、死後の第二の生命のために、復活と清算をされる。確かにアッラーは、何事にも力負けず、その能力を超えるものはない。だから初めに創造したように、容易に人々を復活させることができるのだ。

21 かれは御心のままに、公正に、人に罰を与え、御心の人に恩寵により慈悲を与える。

22 あなた方は地においても天においても、アッラーから逃れることはできない。そしてその懲罰を逃れることもできない。アッラーの他に、あなた方の面倒を見る擁護者もなく、また懲罰を免じてくれる援助者もない。

23 アッラーの印を信じず、審判の日にかれとの会見を信じない人は、われの慈悲を期待できず、不信仰のために楽園に入ることもなく、来世ではかれらには厳しい苦痛があるのだ。

本諸節の功德:

- 偶像には恵みを与える能力はなく、従ってそれは礼拝に値しない。
- 糧を求めるのは、それを与えることのできるアッラーからのみである。
- 創造の始まりは、復活の証拠である。
- 不信仰のまま死ぬ人は、楽園に入ることはない。

فَمَا كَانَ جَوَابَ قَوْمِهِ إِلَّا أَنْ قَالُوا اقْتُلُوهُ أَوْ حَرِّقُوهُ
فَأَنجَاهُ اللَّهُ مِنَ النَّارِ إِنَّ فِي ذَلِكَ لَآيَاتٍ لِقَوْمٍ يُؤْمِنُونَ
﴿٤٤﴾ وَقَالَ إِنَّمَا اتَّخَذْتُم مِّن دُونِ اللَّهِ أَوْثَانًا مَّوَدَّةَ بَيْنِكُمْ
فِي الْحَيَاةِ الدُّنْيَا ثُمَّ يَوْمَ الْقِيَامَةِ يَكْفُرُ بَعْضُكُم
بِبَعْضٍ وَيَلْعَنُ بَعْضُكُم بَعْضًا وَمَأْوَىٰكُمْ النَّارُ
وَمَا لَكُمْ مِّن نَّاصِرِينَ ﴿٤٥﴾ *فَمَا مَن لَّهُ وَلَوْ طُوقَ وَقَالَ
إِنِّي مُهَاجِرٌ إِلَىٰ رَبِّي إِنَّهُ هُوَ الْعَزِيزُ الْحَكِيمُ ﴿٤٦﴾
وَوَهَبْنَا لَهُ إِسْحَاقَ وَيَعْقُوبَ وَجَعَلْنَا فِي ذُرِّيَّتِهِ
الْطُّبَّةَ وَالْكِتَابَ وَءَاتَيْنَاهُ أَجْرَهُ فِي الدُّنْيَا وَآلِهِ
فِي الْآخِرَةِ لِمَنِ الصَّالِحِينَ ﴿٤٧﴾ وَلَوْ طُوقَ إِذْ قَالَ لِقَوْمِهِ
إِنَّكُمْ لَتَأْتُونَ الْفَجْشَةَ مَا سَبَقَكُمْ بِهَا مِنْ أَحَدٍ
مِّنَ الْعَالَمِينَ ﴿٤٨﴾ أَيَّتُهَا الَّذِينَ آمَنُوا الرِّجَالُ وَتَقَطَّعُونَ
السَّبِيلَ وَتَأْتُونَ فِي نَادِيكُمُ الْمُنْكَرَ فَمَا كَانَ جَوَابَ
قَوْمِهِ إِلَّا أَنْ قَالُوا اقْتُلُوا عِدَابَ اللَّهِ إِنَّ كُنتَ مِنَ
الصَّادِقِينَ ﴿٤٩﴾ قَالَ رَبِّ انصُرْنِي عَلَى الْقَوْمِ الْمُفْسِدِينَ ﴿٥٠﴾

الجزء العشرُونَ

④④ 多神を捨ててアッラーだけを奉るようと言われても、イブラーヒームの民の返答はこれだけだった。「あなた方の神々を守るためにかれを殺すか、または火に投げ入れて焼いてしまえ。」でも、アッラーはかれを火から救った。確かに、かれが実際に火の中に投げ入れられたのに救われたというこの出来事の中には、信仰する人々への印がある。というのは、そのような教えから学ぶのは、信者たちであるからだ。

④⑤ またイブラーヒームはかれらに言った。あなた方がアッラーを差し置いて偶像に仕えるのは、互いに現世の生活で愛して止まないからだ。でも審判の日には、懲罰を目の当たりにして、あなた方は互いに否認し合い、互いに拒否し合うだろう。そして、あなた方の住まいは地獄の火であり、あなた方にはどんな救助者もない。アッラーを差し置いて仕えていた偶像たちも、あるいはそれ以外の誰も、アッラーをよそに助けてはくれない。

④⑥ ルート(平安を)はアッラーとイブラーヒームを信じて言った。わたしはわたしの主へと移り住む。祝福された土地である北部の地(シャーム)に移住する。誠にかれは敗れることのない偉大なお方で、かれへと移住する人は恥辱を受けることもない。かれは計画と推計において英明である。

④⑦ またわれらはイブラーヒームにイスハークとヤアコーブの二人の息子を受け、その子孫の間に預言者性と啓典を授けた。またかれには真実に関する堅忍さという現世の報奨も与えたが、来世ではかれには、正しさが与えられる。現世での恩寵が、来世のそれを減少させることはない。

④⑧ 使徒よ、またアッラーとイブラーヒームを信じる、ルート(平安を)の話の思い出せ。かれはその民に言った。「あなた方はこのような淫(みだ)らな行為を犯すのか。あなた方より以前、どの民族もそのようなことをしたことがない

のに。その罪は、健全な人の天性に反しているのだ。」

④⑨ 「あなた方は男性に手を出し、あなた方の非道徳な罪を恐れる道行く人を襲い、あなた方の集会で裸になって、通り行く人に対して言動で危害を加えるなど、してはならない悪行をするのか。」すると、かれの民はこう言うだけだった。「あなたが真実なら、言うとおりにわたしたちにアッラーの懲罰をもたらしてみろ。」

④⑩ そこでかれは人々がしつこく懲罰をもたらすように言ったので、祈りを上げた。「わたしの主よ、不信仰と恥ずべき罪で地上に腐敗を広めるこの民から、わたしを助けたまえ。」

本諸節の功德:

- 正しい人へのアッラーの配慮は、敵の奸計から救うことである。
- アッラーへの移住の功德。
- イブラーヒームとその家族の、アッラーのみもとの高い位置づけ。
- 現世で享受する早めの恩寵は、来世のそれを減少させない。
- 公の場で互いに悪行に手を染めることの、醜態と悪質なこと。

وَلَمَّا جَاءَتْ رُسُلُنَا إِبْرَاهِيمَ بِالْبُشْرَى قَالُوا إِنَّا مُهْلِكُوا
 أَهْلَ هَذِهِ الْقَرْيَةِ إِنَّ أَهْلَهَا كَانُوا ظَالِمِينَ ﴿٣٦﴾
 قَالَ إِنِّي فِيهَا لِأُولُو الْأَرْحَامِ أَغْلَمٌ مِّنْ فِيهَا لِنتَجِجْتَهُ
 وَأَهْلَهُ إِلَّا أُمَّرَأَتَهُ وَكَانَتْ مِنَ الْغَابِرِينَ ﴿٣٧﴾ وَلَمَّا
 أَن جَاءَتْ رُسُلُنَا لُوطًا سِئَاءَ بِهِمْ وَضَاقَ بِهِمْ ذَرْعًا
 وَقَالُوا لَا تَخَفْ وَلَا تَحْزَنْ إِنَّا مُنْجُوكَ وَأَهْلَكَ إِلَّا
 أُمَّرَأَتَكَ كَانَتْ مِنَ الْغَابِرِينَ ﴿٣٨﴾ إِنَّا مُنْزِلُونَ عَلَى أَهْلِ
 هَذِهِ الْقَرْيَةِ رِجْزًا مِّنَ السَّمَاءِ بِمَا كَانُوا يَفْسُقُونَ ﴿٣٩﴾
 وَلَقَدْ تَرَكْنَا مِثْقَالَ عِلَّةٍ لِّقَوْمٍ يَعْقِلُونَ ﴿٤٠﴾
 وَإِلَىٰ مَدْيَنَ أَخَاهُمْ شُعَيْبًا فَقَالَ يَتَقَوْمِ آدَمَ إِنَّ اللَّهَ
 وَأَرْجُوا الْيَوْمَ الْآخِرَ وَلَا تَعْثَوْا فِي الْأَرْضِ مُفْسِدِينَ ﴿٤١﴾
 فَكَذَّبُوهُ فَأَخَذَتْهُمُ الرَّجْفَةُ فَأَصْبَحُوا فِي دَارِهِمْ
 جِثْمِينَ ﴿٤٢﴾ وَعَادًا وَثَمُودًا وَقَدْ تَبَيَّنَ لَكُمْ
 مِّنْ مَّسَاجِدِهِمْ وَرَبِّئِنَّ لَهُمُ الشَّيْطَانَ أَعْمَلَهُمْ
 فَصَدَّهُمْ عَنِ السَّبِيلِ وَكَانُوا مُسْتَبْصِرِينَ ﴿٤٣﴾

31 われらが遣わした天使たちがやってくる、イブラーヒームにイスハークとその息子ヤクブの吉報を伝えた。かれらはかれ(イブラーヒーム)に、言った。「わたしたちはルート(イブラーヒーム)の民の町であるソドムの民を滅ぼす。その民は醜い行いを犯す、不正者たちである。」

32 イブラーヒームは天使たちに言った。「あなたが滅ぼそうとしている町にはルート(イブラーヒーム)がいますが、かれは不正者ではありません。」天使たちは言った。「わたしたちは、そこに居る者たちを知っている。わたしたちは町の民に下される破滅から、かれとかれの家族を救おう。ただし、そこに残って滅ぼされることになっているかれの妻は別だ。わたしたちはかれら諸共、彼女を滅ぼす。」

33 ルートの民を滅ぼすためにわれらが遣わした天使たちが、ルートのもとにやってくる時、ルートはかれの民の邪悪さがかれらに及ぶことを恐れ、悲しんだ。天使たちは男性の姿で現れたのだが、民は女性ではなく、男性に欲望を持って近づいていたのだ。天使たちはかれ(ルート)に言った。「恐れるのではない。あなたの民は、あなたに悪を及ぼすことはない。また、わたしたちがあなたに伝えたかれらの滅亡について、悲しむのではない。わたしたちはあなたと、あなたの家族を滅亡から救うのだから。だが、そこに残って滅ぼされることになっているあなたの妻は別だ。わたしたちはかれら諸共、彼女を滅ぼす。」

34 わたしたちは、悪事を行っていたこの町の民に天から罰を下す。それは焼き土の礫(つぶて)であり、女性ではなく男性を求めるといふ醜い行いを犯して、アッラーへの服従から逸脱していたことへの罰である。」

35 われらは、われらが滅ぼした町の中に、理性ある民にとっての明証を残した。かれらこそが、印から教訓を受ける者たちである。

36 また、われらはマドヤンに、かれらの血縁上の同胞であるシュアィブを遣わした。かれは言った。「民よ、アッラーだけを崇拜せよ。かれの崇拜によって、来世での褒美を望むのだ。地上で罪を行い、広めてはならない。」

37 すると、民はかれを嘘呼ばわりした。それでかれらを激震が襲い、朝にはかれらは家の中でうつ伏せに倒れていた。かれらの顔は土に突っ伏し、身動き一つしなかった。

38 またわれらはフードの民アード、サーリフの民サムードも滅ぼした。マッカの民よ、あなた方にはかれらの滅亡を示す、ハドラマウトの岩場や海辺に残るかれらの空っぽの住居が明らかになっている。シャイターンが、不信仰などのかれらの罪深い行いを、かれらにとって美しいもののように見せ、かれらを真っ直ぐな道から逸らせたのである。かれらは使徒たちから教えられ、真理と迷妄、正しさと誤りを知っていた。しかし導きではなく、欲望に従ったのだ。

本諸節の功德:

- 「かれらの空っぽの住居が、明らかになっている」とは、アラブ人がかれらの住居や知らせについて知っていたことを示している。
- 人間関係は、信仰を伴って初めて有益なものとなる。
- 客人の安全と、敵による侵害からの保護の奨励。
- 罰によって滅びた者たちの住居は、熟慮する者にとっての教訓である。
- 導きをよそに欲望に従っている限り、真理に関する知識は役に立たない。

وَقَرُونِمْ وَفَرَعُونَ وَهَمَلْنَ وَلَقَدْ جَاءَهُمْ مُوسَىٰ بِالْبَيِّنَاتِ
فَأَسْتَكْبَرُوا فِي الْأَرْضِ وَمَا كَانُوا سَاقِيْنَ ﴿٣٨﴾
فَكَرَّهَا أَخَذْنَا بِذُنُوبِهِمْ فَمِنْهُمْ مَّنْ أَرْسَلْنَا عَلَيْهِ حَاصِبًا
وَمِنْهُمْ مَّنْ أَخَذَتْهُ الصَّيْحَةُ وَمِنْهُمْ مَّنْ خَسَفْنَا بِهِ
الْأَرْضَ وَمِنْهُمْ مَّنْ أَعْرَفْنَا وَمَا كَانُوا اللَّهُ يُظْلِمُهُمْ
وَلَكِنْ كَانُوا أَنْفُسَهُمْ يَظْلِمُونَ ﴿٣٩﴾ مِثْلَ الَّذِينَ
اتَّخَذُوا مِنْ دُونِ اللَّهِ أَوْلِيَاءَ كَمِثْلِ الْعَنَكِبُوتِ
الَّتِي تَتَّخِذُ بَيْتًا وَإِنَّ أَوْهَنَ الْبُيُوتِ لَبَيْتُ الْعَنَكِبُوتِ
لَوْ كَانُوا يَعْلَمُونَ ﴿٤٠﴾ إِنَّ اللَّهَ يَعْلَمُ مَا يُدْعُونَ مِنْ
دُونِهِ مِنْ شَيْءٍ وَهُوَ الْعَزِيزُ الْحَكِيمُ ﴿٤١﴾ وَتِلْكَ
الْأَمْثَلُ نَضْرِبُهَا لِلنَّاسِ وَمَا يَعْقِلُهَا إِلَّا الْعَالِمُونَ
﴿٤٢﴾ خَلَقَ اللَّهُ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضَ بِالْحَقِّ إِنْ فِي ذَلِكَ
لَايَةٌ لِلْمُؤْمِنِينَ ﴿٤٣﴾ أَنْتَلِ مَا أُوحِيَ إِلَيْكَ مِنَ الْكِتَابِ
وَأَقِمِ الصَّلَاةَ إِنَّ الصَّلَاةَ تَنْهَىٰ عَنِ الْفَحْشَاءِ
وَالْمُنْكَرِ وَلَذِكْرُ اللَّهِ أَكْبَرُ وَاللَّهُ يَعْلَمُ مَا تَصْنَعُونَ ﴿٤٤﴾

③⑧ カールーンがムーサーの民を侵犯した時、われらはかれ(カールーン)をかれの邸宅もろとも沈めて滅ぼした。また、フィルアウンとその大臣ハーマーンは海で溺死させて滅ぼした。ムーサーはかれらのもとに、かれの正直さを示す明証を持って到来したが、高慢にもエジプトの地で信仰を拒んだ。そしてかれらはわれらの罰をやり過ぎすることも出来ず、それから安全ではいらなかった。

④① こうしてわれらは、上述の者たちを皆、われらの破滅的な罰で捕らえた。われらが焼き土の礫(つぶて)を送った、ルートの民。轟音に襲われたサーリフの民と、シュアイブの民。われらが邸宅もろとも地面に沈めた、カールーン。われらが溺死させたヌーフの民、フィルアウン、ハーマーン。アッラーは不正にも、かれらを罪もなく滅ぼしたわけではない。だがかれらは、罪を犯すことによって自分たちに不正を行っていたのであり、それで罰が確定したのである。

④② アッラーをよそに、利益や執り成しを望んで、偶像を崇拝している多神教徒たちの例は、敵からの攻撃から身を守るために巣を張った蜘蛛のようなもの。最も弱い家とは蜘蛛の巣であり、それは敵から身を守ってくれることもない。かれらの偶像もまた、役に立ったり、害したり、執り成しをしたりすることはない。もし多神教徒たちがそのことを知っていたら、アッラーをよそに偶像を崇拝することはなかっただろう。

④③ アッラーはかれらが、かれをよそに崇拝しているものを知っている。かれはすべてお見通しである。かれは誰にも制圧されない偉大なお方であり、創造と定めと采配において英知あふれるお方。

④④ われらが人々に示すこれらのたとえは、かれらを覚醒させ、真理によって開眼させ、真理へと導くためのもの。そしてそのことを正しく理解するのは、アッラーの教えと英知を知る者以外にはいない。

④④ アッラーは天と地を真理をもって創造した。かれはそれらを無意味に創ったり、戯れに創ったりしたのではない。これらの創造の中には信仰者たちにとって、アッラーの力を示す明らかな証拠がある。かれらはアッラーの創造を、その創造主の証拠とするのである。だが不信仰者たちは地上の方々や自分自身の内に印を認めながらも、創造主の偉大さと力に気づかないままなのだ。

④⑤ 使徒よ、アッラーがあなたに啓示したクルアーンを、人々に読んで聞かせよ。また、礼拝を完全な形で行え。完全な形で行う礼拝は、罪や悪事から人を遠ざける。それは罪を犯すことから妨げ、善行へと導く光を、心の中に生まれさせるのだ。そしてアッラーを想念することは、何にもまして偉大である。アッラーはあなたがたがすることをご存知であり、すべてお見通しである。かれは善行には善行で、悪行には悪行で、行いに報いるのだ。

本諸節の功德:

- 蜘蛛の例えのように、例えを示すことの重要性。
- 現世における罰の多様性。
- アッラーは不正などから無縁である。
- アッラー以外のものに執着することは、最弱の要因に執着することである。
- 信者の素行を矯正することにおける、礼拝の重要性。